

## 解剖生理学Ⅲ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人体各部の構造と機能についての理解をより深めるため、本講義ではミクロの世界にも注意を払いつつ解剖生理学の勉強を完結する。原子、分子、細胞に関する問題が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	人体の階層性	分子、原子から個体へ 二科
2		分子、原子から個体へ 二科
3		分子、原子から個体へ 二科
4	人体の素材としての細胞	細胞の構造 二科
5		細胞を構成する物質 二科
6		細胞を構成する物質 二科
7		細胞におけるエネルギー生成 二科
8		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
9		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
10		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
11		細胞の増殖と染色体 二科
12		組織の分類とその機能 二科
13	体液とホメオスタシス	二科
14	植物機能について	二科
15	動物機能について	二科

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

## 【テキスト】

解剖生理学Ⅰと同じである。  
解剖生理学、人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

## 【参考文献】

なし。

## 生化学

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

生化学とは諸々の生命現象を化学的に解明する学問である。生体を構成する化学物質は多様であり最初は戸惑うであろうが、勉強しているうちに馴染めるものであるから落ち着いて取り組んでほしい。適切な教科書を指定するので、諸君は教科書内容の7割程度は理解して、他人に解説出来るようになること。

## 【授業の展開計画】

- |                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1、始めに（元素間の結合様式等、原子一分子に関する基礎的なことについて） | 二科 |
| 2、生体構成成分の構造と機能（糖質の化学）                | 二科 |
| 3、生体構成分子の構造と機能（糖質の化学）                | 二科 |
| 4、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）                | 二科 |
| 5、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）                | 二科 |
| 6、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）        | 二科 |
| 7、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）        | 二科 |
| 8、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）                | 二科 |
| 9、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）                | 二科 |
| 10、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）             | 二科 |
| 11、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）             | 二科 |
| 12、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）                  | 二科 |
| 13、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）                  | 二科 |
| 14、代謝（脂質代謝、アミノ酸代謝、タンパク質代謝）           | 二科 |
| 15、核酸とタンパク質の生合成、まとめ                  | 二科 |

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)の成績で判断する。

## 【テキスト】

『コンパクト生化学』 大久保 岩男、賀佐 伸省 著 南江堂

## 【参考文献】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 医学書院

## 生体機能・形態演習

**担当教員** 樋口マキエ、上妻尚子、古江佳織、古堅裕章、新裕紀子、緒方浩志、落合順子、喜多麻衣子、柿山英津子、島村美香、田中紀美子、大河原進

**配当年次** 2年

**開講時期** 第1学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 実験・実習

**単位数** 2

**準備事項** 実習着・実習靴着用、聴診器を持っている学生は持参すること。

**備考** xxx名をxx群にする。A(xx)B(xx)C(xx)D(xx)E(xx)F(xx)G(xx)H(xx)I(xx)J(xx)K(xx)L(xx)

## 【授業のねらい】

1年次の解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、医用工学、病態生理学Ⅰおよび薬理学の講義において学んだ身体のしくみ・人体の構造と機能について、この教科では各種の対象・モデル標本を用い学内実験・実習・演習を行い、より具体的に生体機能の正常と異常を理解する。平行して各群毎に、ストレス時の生体反応(血圧、脈拍数)を観察・研究発表する。これにより疾病の成り立ちと回復の促進への理解を容易にし、科学的根拠に基づく看護の基盤とする。

【授業日程】H29年(木)2:50-6:00PM

【授業項目】

【担当教員】

【学生群】

【実習室】

## 【授業の展開計画】

- 4/13 4限：実習オリエンテーション 樋口、上妻、古堅、古江、柿山、島村、喜多、緒方、新 全員 314  
5限：ストレスと血圧の実験(対象者とPhysikoの血圧・HR測定) 樋口、他8名 全員 314, 223
- 4/20 ストレスと血圧の実験(実験手順の検討と血圧HR測定, Physiko) 樋口、上妻、古江、柿山、新 A-F 223, 231  
人体の構造と機能(骨、筋肉、内臓、神経)：標本学習とビデオ 古堅、緒方、喜多、島村 G-L 314, 241
- 4/27 ストレスと血圧の実験(実験手順の検討と血圧HR測定, Physiko) 樋口、上妻、古江、柿山、新 G-L 223, 231  
人体の構造と機能(骨、筋肉、内臓、神経)：標本学習とビデオ 古堅、緒方、喜多、島村 A-F 314, 241
- 5/11 心臓の聴診・正常音と異常音(イチロー)、12誘導心電図 樋口、古堅、古江、緒方 A-D 241  
肺の聴診・正常音と異常音(ラング)、Physiko 田中、喜多、落合、新 E-H 223  
心肺蘇生法(救急モデル)、心拍数・血液酸素飽和度 上妻、柿山、島村 I-L 231
- 5/18 心臓の聴診・正常音と異常音(イチロー)、12誘導心電図 樋口、古堅、古江、島村 I-L 241  
肺の聴診・正常音と異常音(ラング)、Physiko 田中、喜多、落合、緒方 A-D 223  
心肺蘇生法(救急モデル)、心拍数・血液酸素飽和度 上妻、柿山、新 E-H 231
- 5/25 心臓の聴診・正常音と異常音(イチロー)、12誘導心電図 樋口、古堅、古江、新 E-H 241  
肺の聴診・正常音と異常音(ラング)、Physiko 田中、喜多、落合、島村 I-L 223  
心肺蘇生法(救急モデル)、心拍数・血液酸素飽和度 上妻、柿山、緒方 A-D 231
- 6/01 4限：生体内の情報伝達物質と競合的拮抗薬(実習8-11の解説) 樋口、他6名 全員 314  
5限：ストレスと血圧の実験 樋口、他6名 全員 314, 223, 241
- 6/08 心臓に対する自律神経関連薬物の直接作用 樋口、上妻、島村、古江、新 A-D 223-R, 224  
ラットの解剖と消化管の動き(小腸平滑筋の収縮) 古堅、緒方、喜多、樋口 E-H 223-L  
ストレスと血圧の実験 樋口、柿山 I-L 241, 314
- 6/15 心臓に対する自律神経関連薬物の直接作用 樋口、上妻、島村、喜多 I-L 223-R, 224  
ラットの解剖と消化管の動き(小腸平滑筋の収縮) 古堅、緒方、古江、新、樋口 A-D 223-L  
ストレスと血圧の実験 樋口、柿山 E-H 241, 314
- 6/22 心臓に対する自律神経関連薬物の直接作用 樋口、上妻、緒方、古江、新 E-H 223-R, 224  
ラットの解剖と消化管の動き(小腸平滑筋の収縮) 古堅、喜多、島村、樋口 I-L 223-L  
ストレスと血圧の実験 樋口、柿山 A-D 241, 314
- 6/29 血圧に対する生理活性物質の効果と生体反射 樋口、上妻、古堅、古江、緒方、喜多、島村、新 全員 223, 224

## 【履修上の注意事項】

- 7/06 ストレスと血圧の実験：グループ別 結果発表 樋口、上妻、古堅、古江、緒方、喜多、島村、新 全員 314
- 7/13 フィジカルアセスメントモデル 2Physiko 上妻、喜多、新；古堅、古江、緒方；樋口 A-F 241, 223  
病理組織標本(動脈硬化症と続発症、腫瘍) 大河原\*、島村 G-L 314
- 7/20 フィジカルアセスメントモデル 2Physiko 上妻、島村、喜多；古堅、古江、緒方；樋口 G-L 241, 223  
病理組織標本(動脈硬化症と続発症、腫瘍) 大河原\*、新 A-F 314

## 【評価方法】

- 7/27 学生：予備モデル演習および教員：動物実験研修 樋口、上妻、古堅、柿山、島村、緒方、喜多、新 223, 224  
【評価】レポートは項目毎に各自で作成し、次週に提出。実験・実習は参加し実際経験してみることにより意義がある。欠席日のレポート、実験データ・解析結果を記していないレポートは不可。実験研究の発表(20%)+9レポート内容(90%)+参加状況により総合評価。実習室に持ち込める物：筆記用具、記録ノート、教科書  
これ以外の携帯電話・上着・バッグ等は必ずロッカーに入れて来ること。持参者は実習室へ入れない。

## 【テキスト】

各教員が作成した実習書やプリント、ビデオ、CD、フィジカルアセスメントガイドブック(山内 著 医学書院 2,400円)および解剖生理学、医用工学、病理学、薬理学の授業で使用する下記の教科書を必要時、持参する。

## 【参考文献】

- (1)人体の構造と機能『解剖生理学』第9版、医学書院
- (2)『コメディカルのための薬理学』第2版、朝倉書店
- (3)『臨床検査 第11章』系統看護学講座別巻、医学書院
- (4)『看護のための臨床病態学』改定2版、南山堂

## 医用工学

担当教員 樋口 マキエ、千場 梅子、羽手村 昌宏、肥合 康弘、富吉 勝美、荒木 不次男

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- 1) 放射線による検査と治療の基礎を学び、質の高いケアを可能にする。これらの医療行為には、患者の理解と協力が必要で、医療従事者による患者指導が果たす役割は大きい。医療従事者が、診療の目的・内容・方法をよく理解し、適切な前処置や介助を行えば、十分な診療情報が得られ、よい治療効果を可能にする。
- 2) 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解し、医療従事者の役割を正しく把握する。

## 【授業の展開計画】

## 【授業の順番と内容】

## 【授業担当者・日程】

## 放射線と臨床利用

平成29年(月9:10-10:40)

1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。  
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。 羽手村 9-25月
2. 放射線画像：CT、MRI：CTとMRIの原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 羽手村10-02月  
また造影剤の特性も理解する。
3. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合10-10火
4. 核医学：安定同位体と放射性同位体の種類と性質、放射性標識化合物の種類と性質を 富吉10-16月  
理解する。放射性薬剤の臨床応用と看護師の役割を理解する。
5. 核医学：同上 富吉10-26木
6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法の役割について理解し、放射線治療の原理（メカニズム）と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法について解説する。 荒木10-30月
7. 放射線治療学： 荒木11-06月

## 臨床検査

平成29-30年（水13:10-14:40）

8. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-15月
9. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-22水
10. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 千場11-29水
11. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、系統別臨床検査の進め方 千場12-06水
12. 臨床検査各論：一般検査、 千場12-13水
13. 臨床検査各論：血液検査、(検体検査) 化学検査 千場12-20水
14. 臨床検査各論：免疫・血清検査、ホルモン検査 千場 1-10水
15. 臨床検査各論：微生物検査、病理検査 千場 1-17水

## 16. 単位修得試験

樋口・千場 1-31水

## 【履修上の注意事項】

- 1) 医用工学の学習ノートを各自用意し、講義内容の要点を書き留め、その日の内に整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え理解する。意味が解らない時は質問する。
- 3) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参する。
- 4) 測定値の単位を理解する。

## 【評価方法】

筆記期末試験（100＝放射線と臨床応用47＋臨床検査53、但し原則として、両分野とも6割以上の得点で合格とする）。

## 【テキスト】

『臨床放射線医学』 福田国彦 他9名 著、系統看護学講座 別巻、医学書院

『臨床検査』 奈良信雄 編集、系統看護学講座 別巻、医学書院

## 【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井正光 編著、金原出版

『解剖生理学』 坂井建雄 岡田隆夫 著、系統看護学講座、医学書院

## 病態生理学 I

担当教員 掃本 誠治、樋口 マキエ、大河原 進

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学と生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	病理学入門、代謝障害 (1) 細胞の障害、物質沈着	(大河原)
2	循環障害 (1) 局所性の循環障害	(大河原)
3	循環障害 (2) 全身性の循環障害	(大河原)
4	腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類、発生原因	(大河原)
5	腫瘍 (2) 腫瘍の発生病理、転移と進行度	(大河原)
6	腫瘍 (3) 腫瘍の診断	(大河原)
7	腫瘍 (4) 腫瘍の治療	(大河原)
8	腫瘍 (5) 腫瘍の診断と治療 (化学療法)	(樋口)
9	代謝障害 (2) 脂質障害、タンパク質代謝、糖質代謝、他	(掃本)
10	感染症	(掃本)
11	老化と死	(掃本)
12	炎症と免疫 (1) 炎症、免疫	(掃本)
13	炎症と免疫 (2) 免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	(掃本)
14	先天異常 (1) 先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患	(掃本)
15	先天異常 (2) 染色体異常、胎児の障害、診断	(掃本)

### 【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。

### 【評価方法】

筆記試験 (100%) で評価する。60点以上を合格とする。

### 【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

### 【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

## 病態生理学Ⅱ

担当教員 掃本 誠治、牛島 正人、田宮 貞宏

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。機序の視点から総論的に学んだ病態生理学Ⅰと視点を変え、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を理解し、疾患が成り立つ機序としての病態生理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	呼吸器① 呼吸器感染症	(牛島)
2	呼吸器② アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患	(牛島)
3	神 経① 脳血管障害	(掃本)
4	呼吸器③ 間質性肺炎、気道系疾患、肺腫瘍	(牛島)
5	呼吸器④ 肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜・縦隔疾患	(牛島)
6	神 経② 変性疾患、脱髄性疾患、神経感染症、神経中毒	(掃本)
7	神 経③ 神経筋接合部、筋疾患、末梢神経、自律神経	(掃本)
8	循環器① 心不全、高血圧	(掃本)
9	循環器② 動脈硬化、虚血性心疾患	(掃本)
10	循環器③ 不整脈、心臓弁膜症	(掃本)
11	循環器④ 心筋疾患、静脈疾患、先天性心疾患	(掃本)
12	血 液① 赤血球の疾患	(田宮)
13	血 液② 白血球の疾患、出血性疾患	(田宮)
14	膠原病・アレルギー 膠原病と関連疾患、全身性アレルギー	(掃本)
15	感覚器 眼・耳鼻咽喉疾患、体温・酸塩基平衡の調節と異常	(掃本)

## 【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。  
なお、「14. その他」は参考文献1. の内容となる

## 【評価方法】

筆記試験（100％）で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

## 【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

## 病態生理学Ⅲ

担当教員 掃本 誠治、安岡 寛理、未定、こう 健博、和田 孝浩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

病態生理学Ⅱに引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。病態生理学Ⅱと同様に、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	消化管（1）食道の疾患、胃・十二指腸の疾患	（掃本）
2	消化管（2）大腸の疾患、肛門の疾患	（掃本）
3	肝/胆/膵（1）肝臓疾患	（掃本）
4	肝/胆/膵（2）胆道疾患、膵疾患	（掃本）
5	代謝/栄養（1）糖尿病、メタボリック症候群	（掃本）
6	代謝/栄養（2）痛風、骨粗鬆症、サルコペニア	（掃本）
7	腎/泌尿器（1）糸球体腎炎、続発性腎疾患、その他の腎疾患	（こう）
8	腎/泌尿器（2）泌尿器科疾患、腎不全	（和田）
9	運動器（1）解剖と生理、外傷、骨折、脱臼・捻挫	（安岡）
10	運動器（2）脊椎・脊髄、上肢・下肢、腫瘍、末梢神経麻痺	（安岡）
11	内分泌 視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	（掃本）
12	皮膚 湿疹・皮膚炎、皮膚感染症	（掃本）
13	女性生殖器（1）月経困難症、子宮内膜症、不妊症	（未定）
14	女性生殖器（2）子宮癌、乳癌	（未定）
15	女性生殖器（3）性感染症、更年期障害	（未定）

## 【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

## 【評価方法】

筆記試験（100%）で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

## 【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

## 看護技術 I

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

詳細な計画および担当者については、第1回目の講義で説明する。

1～15は講義予定、16～30は演習予定である。演習はグループに分かれて行うので、2回続きの内容の場合はグループ毎に学習内容が異なる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、コミュニケーション（柴田）	16	コミュニケーション（基礎担当者）
2	環境調整技術（柴田）	17	手洗い、ベッドメイキング（基礎担当者）
3	活動と休息援助技術（古江）	18	体位変換、ベッドメイキング（基礎担当者）
4	食事援助技術（古堅）	19	体位変換、移送（基礎担当者）
5	排泄援助技術（新）	20	A：排泄介助、B：食事介助（基礎担当者）
6	洗髪（古堅）	21	B：排泄介助、A：食事介助（基礎担当者）
7	清拭、和式寝衣交換（古堅・古江）	22	A：清拭・足浴、B：無菌操作（基礎担当者）
8	感染予防の技術（上妻）	23	B：清拭・足浴、A：無菌操作（基礎担当者）
9	小テスト1、看護過程の構成要素（柴田）	24	A：バイタルサイン、B：寝衣交換（基礎担当者）
10	呼吸、循環を整える技術（上妻）	25	B：バイタルサイン、A：寝衣交換（基礎担当者）
11	ヘルスアセスメント（上妻）	26	実技試験1、バイタルサイン（基礎担当者）
12	安全確保の技術（上妻）	27	A：洗髪、B：バイタルサイン（基礎担当者）
13	安楽確保の技術（上妻）	28	B：洗髪、A：バイタルサイン（基礎担当者）
14	看護過程：アセスメント（柴田）	29	実技試験2、罨法（基礎担当者）
15	小テスト2、看護過程、看護記録（柴田）	30	口腔・陰部ケア（基礎担当者）

## 【履修上の注意事項】

講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているの、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。

## 【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40%

## 【テキスト】

- ①『系統看護学講座・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』有田清子他（医学書院）②『看護技術プラクティス』竹尾恵子（学研）  
 ③『ナース・ワークアップ』古橋洋子（文光堂）④『実践に役立つ看護過程と看護診断』三上れつ（ヌーヴェル ビヨウ）

## 【参考文献】

『イラストでわかる基礎看護技術』、『なぜ？がわかる 看護技術LESSON』、『臨床看護技術ガイド』  
 『考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』、『ビジュアル看護技術 基礎看護技術』、『基礎看護学テキスト』

## 看護技術Ⅱ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。

## 【授業の展開計画】

第1回目の講義で詳細な計画を説明する。第9回・12回の講義時に小テストを行う。16回から30回は演習を行う。演習は1クラスを2グループに分け、2つの演習項目を基礎看護実習室と424教室に分かれて実施する。演習は、各看護技術の実施方法のみならず実施前のアセスメントおよび実施後の評価についての学習を含む。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・フィジカルアセスメント（上妻）	16	フィジカルイグザミネーション（担当者全員）
2	創傷管理技術（上妻）	17	A:創傷管理技術 B:採血（担当者全員）
3	症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	18	A:採血 B:創傷管理技術（担当者全員）
4	食事の援助技術-経管栄養法など-（古堅）	19	A:演習記録 B:経管栄養（担当者全員）
5	排泄の援助技術（浣腸・導尿など）（新）	20	A:経管栄養 B:演習記録（担当者全員）
6	与薬の援助技術の基礎（上妻）	21	A:皮下注射 B:浣腸・排便（担当者全員）
7	与薬の援助技術の実際（古江）	22	A:浣腸・排便 B:皮下注射（担当者全員）
8	呼吸・循環を整える技術-酸素吸入-（上妻）	23	A:酸素 B:直腸内 筋肉注射（担当者全員）
9	呼吸・循環を整える技術-吸引など-（上妻）	24	A:直腸内 筋肉注射 B:酸素（担当者全員）
10	症状・生体情報モニタリングの技術（上妻）	25	A:口腔・気管内吸引 B:導尿（担当者全員）
11	診察・検査・処置の介助技術（上妻）	26	A:導尿 B:口腔・気管内吸引（担当者全員）
12	救命救急処置術（上妻）	27	フィジカルアセスメント（担当者全員）
13	死の看取りの技術（柴田）	28	実技試験（担当者全員）
14	看護過程 全体像の作成（柴田）	29	看護過程 計画立案（担当者全員）
15	看護過程まとめ 看護記録（柴田）	30	看護過程 計画の評価と修正（担当者全員）

## 【履修上の注意事項】

講義前はテキストの該当項目を熟読し、提示された課題に取り組み、講義後は提示された資料を基に復習する。演習前は、提示症例に対する援助計画を立案し、演習によって各看護技術を習得する。演習後は、実施方法及びその評価を行って自身の演習内容を振り返り、今後の課題を明らかにする。演習時には、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加する。不適切な場合は、演習への参加ができないことがある。看護技術学習ガイドを活用して、自身の看護技術の学習進度を確認する。看護過程の講義および演習は、別途詳細な授業計画の提示あり。

## 【評価方法】

定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度（演習記録の提出を含む）：40%

## 【テキスト】

- ①「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子（医学書院）②「看護技術プラクティス」竹尾恵子（学研）  
③「ナーシング・ワークアップ」古橋洋子（文光堂）④「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ（ヌーヴェルヒロカリ）

## 【参考文献】

「看護技術がみえる①・②」メディックメディア、「写真でわかる基礎看護技術①・②」インターメディアカ、「ビジュアル臨床看護技術」照林社、他

## 看護技術Ⅲ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1年次に履修した看護技術Ⅰ・Ⅱおよび解剖学・生理学での学びを基にして、フィジカルイグザミネーションの基本的な技術を理解できる。フィジカルイグザミネーションによって得られた情報を基にして、健康成人のフィジカルアセスメントを行うことができる。1年次に学習した看護過程の理解を深めることができる。

## 【授業の展開計画】

講義と演習より構成され、初回時に詳細なオリエンテーションを行う。第2回から4回目までは1年次で学習した看護過程を振り返り、看護の思考過程の理解を深める。第5回以降はフィジカルイグザミネーションおよびアセスメントの学習である。演習では、看護師役と患者役を設定し、身体機能の客観的情報を得る技法を習得する。さらに、第14・15回では、症例を提示し、フィジカルイグザミネーションの活用方法やそれによって得た情報からのアセスメントについてグループワークを通して学習し、全体発表によって学びを深める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントとは（上妻）
2	看護過程 情報収集とアセスメント（柴田）
3	看護過程 問題点の明確化と計画立案（柴田・古堅・古江・新）
4	看護過程 実施と評価（柴田・古堅・古江・新）
5	頭頸部のフィジカルイグザミネーション（上妻）
6	感覚器系のフィジカルイグザミネーション（上妻）
7	腹部のフィジカルイグザミネーション（上妻）
8	小テスト 筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション（上妻）
9	神経系のフィジカルイグザミネーション（上妻）
10	演習：筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの実際（上妻・古堅・古江・新）
11	演習：神経系のフィジカルイグザミネーションの実際（上妻・古堅・古江・新）
12	演習：腹部のフィジカルイグザミネーションの実際（上妻・古堅・古江・新）
13	演習：頭頸部・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際（上妻・古堅・古江・新）
14	症例に対するフィジカルアセスメント グループワーク（上妻・古堅・古江・新）
15	フィジカルアセスメントの全体発表（上妻・古堅・古江・新）

## 【履修上の注意事項】

看護過程の授業前には、テキストを読み1年次の学習内容を振り返っておくこと。10回から13回のフィジカルイグザミネーションの演習は、4グループに分かれて4項目を同時進行で行うため、実施の順番は表記の通りとは限らない。別途、オリエンテーション時に説明する。演習時の服装は、身体所見を取りやすい服装とし、装飾品は装着しない。

## 【評価方法】

定期試験60%、小テスト・演習時の課題・グループワークおよび発表40%

## 【テキスト】

①「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子(医学書院) ②「看護技術プラクティス」竹尾恵子(学研) ③「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ(ヌヴェルビヨリ) ④「フィジカルアセスメントガイドブック」山内豊明(医学書院)

## 【参考文献】

「診察と手技がみえる①・②」・「フィジカルアセスメントがみえる」メディックメディア、「写真でわかるフィジカルアセスメント」インターメディカ、「新人ナースひな子と学ぶフィジカルアセスメント」メディカ出版

## 基礎看護学実習

担当教員 柴田、上妻、新、落合、緒方浩、柿山、喜多、島村、戸田、古江、古堅、森口、未定

配当年次 1～2年

開講時期 (1年)2学期、(2年)通年

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 本科目は、1年次第2学期から2年次第2学期までの開講科目

### 【授業のねらい】

日常生活援助を中心とした看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解する。

### 【授業の展開計画】

実習目標

1. 看護職者の専門性を認識する。
  - (1) 看護の提供の場について知る。
  - (2) 他職種との連携のあり方について知る。
2. 看護ケアの必要性を理解する。
  - (1) コミュニケーションを通して患者を理解する。
  - (2) 日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。
  - (3) 看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。
3. 基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。

\*詳細については「臨地実習要項 ー基礎看護学実習ー」で確認すること。

### 【履修上の注意事項】

1. 必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。
2. 単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。
3. 学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員（担当教員および科目責任者）が協議をした上で実習を中止する場合がある。
4. 予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。

### 【評価方法】

基礎看護学実習Ⅰ(1年次)、Ⅱ(2年次)を総合的に評価する。  
実習内容(学習・実践・記録):60%、提出・健康管理・実習態度:40%

### 【テキスト】

その都度、紹介する。

### 【参考文献】

その都度、紹介する。

## 臨床看護学総論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解する。
2. 健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習する。
3. 主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習する。
4. 臨床看護についての学びを総括することで、自己の課題を明らかにする。

## 【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族（柴田）
2	経過に基づく患者の看護（上妻）
3	主要症状を示す患者の看護：痛み、呼吸障害（上妻）
4	主要症状を示す患者の看護：意識障害（上妻）
5	主要症状を示す患者の看護：循環障害（上妻）
6	主要症状を示す患者の看護：消化・排泄障害（上妻）
7	小テスト1、グループワーク：症状と看護について（上妻）
8	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法・手術療法（古堅）
9	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法、化学療法（柴田）
10	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置、集中療法（古江）
11	小テスト2、看護過程：アセスメント（柴田）
12	看護過程：ペーパーペイシェントの情報整理（柴田）
13	看護過程：これまでの学習のまとめとグループ発表（柴田）
14	看護過程：看護計画の立案（柴田）
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）

## 【履修上の注意事項】

看護過程の学習は、同時期に開講される「看護技術Ⅱ」の授業計画に合わせて行われるので、両方の科目の計画を確認してください。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題は授業の予習でもあるので、必ずレポートを作成することで課題を実施する。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

## 【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出）：40%

## 【テキスト】

系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永 他（医学書院）

## 【参考文献】

随時、紹介する。

## 小児看護学 I

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 子どもを取り巻く社会環境の変化について学び、説明することができる。
2. 多様化する子どもと家族の健康ニーズについて理解できる。
3. 健全な子どもの特性、および成長発達過程を理解できる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	小児看護学概論、小児とは、子どもの権利と家族、子ども虐待の理解ができる (宮里)
2	Physical Assessment が説明できる (松岡)
3	Physical Assessment が説明できる (松岡)
4	子どもを取り巻く社会、小児の観察、成長発達の一般原則と評価を理解できる (宮里)
5	小児に関わる理論を学び小児看護を学ぶ際に考えることができる (宮里)
6	看護過程演習1事例の看護過程演習①情報収集②事例のassessment (成長発達) の体験(二宮、松岡)
7	看護過程演習1事例の看護過程演習③事例のassessment(現症)を体験する(二宮、松岡)
8	子どもの健康と保健を理解する (二宮)
9	健康レベルに応じたFamily Centered Care を理解する(二宮)
10	技術演習①身体計測とvital signsの測定 ②調乳演習栄養・代謝の実際③与薬の実際(二宮、松岡他)
11	技術演習①身体計測とvital signsの測定 技術演習②調乳演習栄養・代謝の実際(二宮、松岡、TA)
12	Preparation学習グループでのpresentationを体験し、他者を評価でき、疑似体験ができる (二宮)
13	Preparation学習グループでのpresentationを体験し、他者を評価でき、疑似体験ができる (二宮)
14	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)
15	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)

## 【履修上の注意事項】

1年次の専門科目であるmedical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。各個人に必要な事前学習を行ってこよう。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。\*小児看護学は既修専門科目及び既修共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかってくることも事前学習とする。\*小児看護実習、看護統合演習I・実習で、小児看護学の理論と実践の統合をはかるところを前提にしていることから、事後の復習は、medical scienceを根拠とする小児看護学として理解できるレベルまでを求める。

## 【評価方法】

出席が開講回数数の2/3以上であることを評価の前提とする。

1. 定期試験に準じた試験 60%、小テスト20%
2. レポート及び演習 20%

## 【テキスト】

小児看護学①小児看護概論小児保健、小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集松尾宣武、濱中嘉代 メヂカルフレンド社、ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術 編集中野綾美 メディカ出版

## 【参考文献】

「看護診断ハンドブック」 リンダ J・カルペニート=モイエ著 医学書院、小児看護技術編集今野美紀、二宮啓子、南江堂、こどもの病気の地図帳、監修鴨下重彦、柳澤正義、講談社 講義中に配布される印刷教材、DVD

## 小児看護学Ⅱ

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 小児における主な疾患とその発達段階における特徴及びその疾患を持つ子どもの家族・社会的看護について学び説明できる
2. 子どもの権利を尊重し、健康の増進及び疾病の予防についての看護を学び説明できる

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	疾患看護の学習方法、染色体異常・先天代謝異常、新生児疾患とその看護を理解できる(二宮)
2	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる①(松岡)
3	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる②(松岡)
4	看護過程演習 ①情報のassessment関連図 ②看護問題抽出が紙上でできる(宮里、二宮、松岡)
5	看護過程演習 ③看護問題から看護診断へ④看護計画が紙上でできる(二宮、宮里、松岡)
6	技術演習①ネブライザー吸入②持続点滴下での乳児の沐浴 の援助を体験する(宮里、二宮、松岡)
7	血液疾患を持つ患児の看護を理解できる (宮里)
8	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
9	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)
10	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる③ (二宮)
11	小児の救急・火傷を含めた事故とその看護、災害に遭遇した小児と家族の看護を理解できる (宮里)
12	CPCR、トリアージ、事例を通して看護職者としての看護倫理を考える事が理解できる(二宮)
13	腎疾患、筋肉・骨疾患を持つ患児の看護を理解できる (二宮)
14	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
15	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)

## 【履修上の注意事項】

1年次の専門科目であるmedical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。各個人に必要な事前学習を行ってこよう。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。\*小児看護学は既修専門科目及び既修共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかってくることも事前学習とする。\*小児看護学実習、看護統合演習Ⅰ・実習で、小児看護学の理論と実践の統合をはかってくることを前提にしていることから、事後の復習は、medical scienceを根拠とする小児看護として理解できるレベルまでを求める。

## 【評価方法】

出席が開講回数数の2/3以上であることを前提として総合評価を行なう。

1. 定期試験70%、小テスト20%
2. レポート、演習、グループワーク課題 10%

## 【テキスト】

小児看護学①小児看護学概論小児保健 小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集 松尾宣武、濱中嘉代  
メディカルフレンド社、ナースンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 編者 中野綾美 メディカ出版

## 【参考文献】

監修川野雅資編集 中村伸枝、PILAR、小児疾患診療のための病態生理1・2、第4版東京医学社、小児内科増刊、城ヶ端初子監修、実践に生かす看護倫理、他解剖生理学生化学等

## 小児看護学実習

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- I 子どもの権利を尊重し対象である子どもとその家族の健康問題を学び理解することができる。健康な子どものセルフケア能力をアセスメントし支援を考え、社会における小児看護職の役割を考察する。
- II 小児看護学の統合の場と位置付けられ、Critical Thinking, Communication, Assessment, Technincal skills を習得し、実習をとおり問題解決能力を高めることができる。

### 【授業の展開計画】

【小児看護学実習Ⅰ：保育所・園および小児看護学実習Ⅱ：病院、施設】

1. 実習期間：小児看護学Ⅰ（2日間）、小児看護学Ⅱ（8日間）
2. 実習場所：玉名・熊本市内の保育所・園および熊本県内の病院、重症心身障害児施設
3. 実習内容

#### 1) 小児看護学実習Ⅰ

- ①健康な子どもの成長発達過程を理解し子どもの個別性、性差を理解することができる。
- ②成長発達に応じたcommunicationをはかり、こどもと人間関係を構築し、成長発達する過程で学習する集団保育・幼児教育に参加できる。
- ③子どもにとっての遊びの重要性を理解し、成長発達を促すかわりができ、個・集団の違いを理解しかかわることができる。
- ④看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた事故防止感染防止活動の援助ができ、学生の自己課題の明確化と継続的な学習能力を身につけることができる。

#### 2) 小児看護学実習Ⅱ

- ①ライフサイクルの中での小児期を理解し、成長を促すためのcareを考えることができ成長発達、健康の状態に応じた看護を理解できる。
- ②小児の医療に必要な意義、方法を理解しfamily centered careを理解できる。
- ③対象に応じたcommunication 技能と対人関係能力を学び、地域・医療・保健・福祉・教育との連携を理解し小児看護の役割の独自性を考察することができる。
- ④子どもとその家族に必要な社会的資源・福祉サービスを理解することができる。
- ⑤自己課題の明確化死説明できる。

### 【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、事前学習(知識・技術など)を行って、実習で小児看護の対象者へ看護を展開できるような状態にして実習に臨むこと
2. 必ず出席すること、実習中の欠席・遅刻・早退、それに準ずるものは原則として認めない
3. 学生が誓約した内容を遵守
4. 単位修得ができない場合は、翌年度に履修することになる。
5. 事後学習でライフステージにおける小児看護学と実践の統合をすること。

### 【評価方法】

出席が実習日数の3分の2以上であることを前提として、総合評価を行う。

1. 実習態度：50%（準備性、実施状況、個別性、応用性、修正の度合いなど）
  2. 実習記録とカンファレンス：50%（具体性、個別性、独自性、安全・安楽への取り組みなど）
- ※実習要項に示した自己評価と指導者および教員による評価を総合して、会議後評価判定する。

### 【テキスト】

「看護学実践 小児看護学」編集 中村伸枝 PILAR PRESS、「看護診断ハンドブック」リンダ J・カルペニート＝モイエ著 医学書院、その他看護に関連した共通科目・専門科目で用いたテキスト全て HPup資料も含む

### 【参考文献】

- ・『小児看護』2000.8ークリニカル・サインのチェックポイントー。へるす出版・medical science関連教科書
- ・小児看護学の教科書・参考書・授業中使用の印刷教材・資料、HP資料 など全て

## 成人看護学 I

担当教員 福島 和代、田中 紀美子、杉野 由起子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

成人看護学においては、成人期にある人およびその生活を理解し、健康の維持増進、疾病予防、疾病からの回復、ターミナル期の援助について学ぶ。

成人看護学 I は、まず成人期の人の特徴、看護を展開するために必要な概念を理解する。そして、健康の維持増進、疾病予防、急性期から慢性期にある人とその家族、手術を受ける人とその家族の健康問題と看護を学ぶ。さらに、生命維持の要である循環・呼吸機能に障害を持つ患者の看護を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

下記展開で変更が生じた場合は、学生に変更計画を提示する。

回数	月日	時間	担当	内容
1回	4/7	(金) 5限	(福島)	: オリエンテーション・成人期にある人の理解①成長発達の特徴②生活と健康観
2回	4/14	(金) 5限	(福島)	: 成人期にある人の理解と看護③健康障害と看護④成人の学習の特徴
3回	4/21	(金) 5限	(福島)	: 看護に有用な概念 (ストレス、危機他)
4回	5/12	(金) 5限	(福島)	: 看護に有用な概念 (セルフケア、自己効力他)
5回	5/19	(金) 5限	(福島)	: 周手術期看護総論 (手術を受ける患者の理解、手術侵襲・麻酔侵襲の理解)
6回	5/26	(金) 5限	(福島)	: 手術前看護、術中看護、術後の看護
7回	6/2	(金) 5限	(杉野)	: 急性重症患者の看護
8回	6/9	(金) 5限	(田中)	: 心不全患者の理解 (心不全発症過程の理解)
9回	6/16	(金) 5限	(田中)	: 急性心不全、慢性心不全患者の看護
10回	6/23	(金) 5限	(田中)	: 虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞) 患者の看護
11回	6/30	(金) 5限	(田中)	: PCIを受ける患者の看護、心臓リハビリテーションの実際
12回	7/7	(金) 5限	(田中)	: 呼吸不全患者の理解 (呼吸不全発症過程の理解)
13回	7/14	(金) 5限	(田中)	: 呼吸不全患者 (ARDSとCOPD) の看護
14回	7/21	(金) 5限	(田中)	: 肺がんで肺切除を受ける患者の看護
15回	7/28	(金) 5限	(田中)	: 呼吸リハビリテーションの実際
16回	8/4	(金) 5限	(福島)	: まとめ

## 【履修上の注意事項】

成人看護学の学習内容は広範囲であり、解剖生理学・病態生理学と治療、基礎看護学等の知識が基盤となる。よってそれらの内容を教科書で十分に予習して授業に臨むことが必須である。また、毎回の授業後には復習をし、丸暗記ではなく内容を理解し、曖昧な点は積極的に質問して解決しておく。学習内容は3年次の成人看護学実習と直結している。患者の看護は、自分のことばで説明できるように理解しておかなければ実践できない。質の高い看護を実践できる能力を身に着けるために主体的な学習姿勢を望む。

## 【評価方法】

定期試験で(100%)評価する

## 【テキスト】

1. ナーシング・グラフィカ「成人看護学概論」メディカ出版
2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院
3. 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

## 【参考文献】

1. ナーシング・グラフィカ「セルフマネジメント」「健康危機状況」メディ出版
- 2 「慢性期看護論」NOUVELLE HIROKAWA
3. 「周手術期看護論」NOUVELLE HIROKAWA

## 成人看護学Ⅱ

担当教員 川本 起久子、福島 和代、喜多 麻衣子、島村 美香、田中 紀美子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 3

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

成人の多様な健康障害とその看護を学び、看護実践に必要な基礎知識を獲得することができる。健康障害を持つ成人患者の事例を通して具体的に看護過程の展開を理解できる。

## 【授業の展開計画】

講義3単位で展開する。下記展開で一部変更が生じた場合は、変更計画を学生に提示する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	造血機能に障害のある患者の理解 福島	16	肝機能に障害のある患者の看護 田中
2	造血機能に障害のある患者の看護 福島	17	糖尿病を持つ患者の理解 川本
3	免疫機能に障害のある患者の理解 福島	18	糖尿病を持つ患者の看護 川本
4	免疫機能に障害のある患者の看護 福島	19	腎不全患者の理解 田中
5	運動機能に障害のある患者の理解 喜多	20	腎不全患者の看護 田中
6	運動機能に障害のある患者の看護 喜多	21	心筋梗塞の患者事例の理解 田中
7	脳神経系に障害のある患者の理解 川本	22	看護過程① 島村
8	脳神経系に障害のある患者の看護 川本	23	看護過程② 島村
9	胃がんで手術を受ける患者の理解 川本	24	
10	胃がんで手術を受ける患者の看護 川本	25	
11	乳がん患者の看護 川本	26	
12	子宮がん患者の看護 川本	27	
13	肝機能に障害のある患者の理解 田中	28	
14	肝機能に障害のある患者の理解 田中	29	
15	肝機能に障害のある患者の看護 田中	30	

## 【履修上の注意事項】

成人看護学Ⅰ・Ⅱは、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱと直結した学習内容である。臨地実習は、看護の対象者と直接かわりを持ち実践行動を展開することで、理論と実践の結びつきを理解する重要な場面である。健康障害を持つ受け持ち患者様の回復過程を促進する看護を提供する前提は基礎的な知識と技術を身につけていることである。事前に教科書で各器の構造と機能を予習して望むこと、授業後は配布資料や教科書で復習をすること。

## 【評価方法】

評価基準は「試験 100%」で60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院 2. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 3. 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版

## 【参考文献】

周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 系統看護学講座別巻2 臨床外科看護各論 医学書院. 看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA

## 成人看護学Ⅲ

担当教員 田中 紀美子、山本 みゆき

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

終末期患者の苦痛をトータルペインとしてとらえ、患者とその家族にとってできる限り良好なQOLを実現することを目標とする緩和ケアの基本を学ぶ。学習内容：1) 患者が抱く身体的・心理的・社会的・スピリチュアルペインを理解する。2) 患者の意思を尊重しながら、残された人生をその人らしく過ごすための看護について学ぶ。3) QOLを高めるための援助について学ぶ。4) 家族の不安や悲嘆を理解し、支援することの必要性を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

1. ターミナルケア・緩和ケアの概念（死生観の必要性）非常勤講師（田中紀美子・山本みゆき）
2. スピリチュアルペインの理解 非常勤講師（田中・山本みゆき）
3. トータルペインとチームアプローチ 非常勤講師（田中・山本みゆき）
4. 身体的苦痛に対する援助（非常勤講師：田中紀美子）
5. 真実を伝える・コミュニケーションとは（非常勤講師：田中紀美子）
6. 精神的、社会的、スピリチュアルペイン（霊的苦痛）に対する援助（非常勤講師：田中紀美子）
7. 家族の悲嘆に対する援助（グリーフワークの必要性）（非常勤講師：田中紀美子）
8. まとめ：命をめぐる対話―暗闇の世界で生きられますかのビデオ鑑賞後に自己の死生観について考える（非常勤講師：田中紀美子）

## 【履修上の注意事項】

緩和ケアスペシャリスト・緩和ケア教育のコーディネータ、ホスピスケアの啓蒙、教育に携わり、現在ヒーラーとして活躍中の山本みゆき氏を非常勤講師として3コマ依頼している。実践を通してのお話なので話をよく聞いて看護に生かしてほしい。事前・事後学習：与えられた課題についての学習とレポート作成を毎回行うこと。

## 【評価方法】

講義最終日の課題「ビデオの事例の評価と自己の死生観」についてのレポート提出。100%評価。60点以上（100点満点）を合格とする。なお、再試験は施行しない。

## 【テキスト】

系統看護学講座 別巻「緩和ケア」医学書院。田中作成 講義プリント

## 【参考文献】

「命をめぐる対話」暗闇の世界で生きられますか：ノンフィクション作家 柳田邦男氏（NHKドキュメンタリ番組）⇒学生自身の死生観を考えるための導入に用いる

## 成人看護学実習 I

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、喜多 麻衣子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し行動できる基礎能力を養う。

実習 I は周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解することができる。

### 【授業の展開計画】

1. 病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解を深める。
2. 患者情報を系統的に収集し手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し看護計画を立案する。最善の状態が手術が受けられるように準備を整える。
3. 手術後の危機状態にある患者に対して、生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案できる。
4. 回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行う。
6. 周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価する。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。

### ＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

### 【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

講義資料や教科書で事前学習を行ったうえで実習に臨む。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けてケアの意味づけを行う。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

### 【評価方法】

指導教員、実習指導者の総評をもとに、総合的に評価する。

評価基準は、実習評価表に基づき

「受持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

### 【テキスト】

系統看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総

論 医学書院の教科書および講義資料。

### 【参考文献】

周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 系統看護学講座別巻2 臨床外科看護各論 医学書院. 看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA

## 成人看護学実習Ⅱ

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、喜多 麻衣子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。

成人看護実習Ⅱでは、慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、患者と家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護が展開できる。

### 【授業の展開計画】

1. 慢性の疾患は主に生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境（自然・社会・文化）の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解する。疾患の診断・治療に必要な検査の目的・意義を理解し、看護の役割を学ぶ。
2. 患者情報を系統的に収集し慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントし看護問題を明確化する。
3. 患者と家族の強み（主体的に病気を管理できるようなポジティブな面）を生かした看護計画を立案する。
4. 患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するために患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行う。
6. 慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価できる。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

### ＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

### 【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。  
講義資料や教科書で事前学習を行ったうえで実習に臨む。  
実習後は振り返りを行い、指導を受けて看護の意味づけを行う。  
体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

### 【評価方法】

担当教員、実習指導者の総評をもとに総合的に評価する。  
評価基準は、評価表に基づき「受持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

### 【テキスト】

系統別看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 糖尿病食品交換表 第7版 の教科書及び講義資料。

### 【参考文献】

看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA. 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA. 患者教育のポイント 医学書院. 今日の治療薬 南江堂.

## 老年看護学 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、柿山 英津子、前原 朝子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

1. ライフサイクルの中で老年者をとらえ、老年者の特徴とその健康生活について理解できる。
2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。
3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。
4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。
5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	導入・講義概要の説明・老年看護学の成り立ち（高齢者インタビュー課題の説明含む）	生野
2	高齢者の尊厳・高齢社会の変遷と高齢者の現状	生野
3	高齢者の保健医療福祉制度の変遷と世界の高齢化の現状	生野
4	高齢者の理解①老化の考え方・老化の特徴・感覚器の老化	生野
5	②運動器・筋・骨格の老化	山本
6	③循環器・呼吸器・消化器等の老化	生野
7	④精神・心理・社会的側面の老化	生野
8	⑤口腔・歯牙の老化とケア	前原
9	介護保険制度の理解①理念・保険者・被保険者・認定	生野
10	②サービスの種類と看護師の役割	生野
11	③地域包括ケアと制度の今後	生野
12	高齢者ケアの場と協働 病院・施設・在宅の連続性と多職種協働	柿山
13	高齢者ケアの問題点 一人暮らしの増加・老々介護・高齢者虐待・家族支援	生野
14	高齢者の望む晩年の過ごし方・望まれる終末期ケアの在り方	生野
15	高齢者のフィジカルアセスメントとインタビューレポートについて・まとめ	生野

### 【履修上の注意事項】

- ・ 3年次臨地実習である老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、および看護統合実習の先修科目である。
- ・ 第1回講義時に高齢者インタビューとアセスメントの視点を説明するので、具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。
- ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読しておくこと。
- ・ 講義時にミニテスト（学習用）を実施する。必ず復習しておくこと。

### 【評価方法】

期末定期試験90%、課題レポート10%の割合で評価する。

### 【テキスト】

1. 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メジカルフレンド社
2. 「国民衛生の動向 2016/2017」厚生労働統計協会（1年次購入済み）

### 【参考文献】

1. 「高齢者の健康と障害」堀内ふき編 メディカ出版
2. 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院

## 老年看護学Ⅱ

担当教員 山本 恵子、柿山 英津子、生野 繁子、樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

高齢者に多くみられる症状・疾患の特徴を理解し、健康課題を見出すためのアセスメントができる。また、高齢者における手術療法、薬物療法など治療上の注意点とケアが理解できる。さらに認知症の症状や終末期・看取りのケアについて説明ができる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	高齢者の疾患の特徴：予備力低下、個別性など(山本)
2	高齢者の入院・検査：入院経路、検査時の注意など（山本）
3	高齢者の手術・退院：低体温・熱中症、掻痒、シームレスケアなど（山本）
4	高齢者の薬物療法：多剤併用、代謝低下、管理（樋口）
5	高齢者に多い疾患：白内障、前立腺肥大症、誤嚥性肺炎など（山本）
6	高齢者に多い疾患：骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折など（山本）
7	症状アセスメント：低栄養、浮腫、電解質代謝異常など（生野）
8	症状アセスメント：不眠、失禁、便秘、難聴（山本）
9	高齢者ケア：高齢者看護の実際（特別講義）
10	演習：高齢者へのインタビュー（山本、生野、柿山他）
11	演習：高齢者のヘルスアセスメント：アセスメント（山本）
12	高齢者のヘルスアセスメント：対象理解に向けた高齢者のアセスメント（山本）
13	終末期のケア：エンド オブ ライフケア（生野）
14	認知症とは：医学的視点での理解（柿山）
15	認知症の看護：認知症ケア（柿山）

### 【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があっても無効です。
- ・事前学習：老年看護学Ⅰを十分に復習しておくこと。授業展開を参考に教科書を熟読して受講してください。
- ・事後学習：毎回、教科書やプリントを参考に各自復習し理解をするようにしましょう。

### 【評価方法】

演習：10% 試験：90%

### 【テキスト】

『ナースング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実際』．堀内ふき他．MCメディカ出版．2016．

### 【参考文献】

『生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程』．奥宮暁子他．医薬出版株式会社．2012．

## 老年看護学実習 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、柿山 英津子

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

実習目的 介護老人保健施設における医療・機能訓練・看護が必要な利用者への理解を深め、健康課題に対するケアの在りかたを学ぶ。

実習目標 実習要項を参照すること

### 【授業の展開計画】

介護老人保健施設における実習2週間を設定している。詳細は実習要項を参照すること。

施設 :実習施設一覧を参照すること

実習配置:5~6施設に2~6名ずつ配置する。

□□

2週間の実習スケジュールは実習要項に記載している。

### 【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、準備段階から主体的かつ積極的に学ぶこと。
2. 実習要項に記載している事前学習を十分に実施しておくこと。
3. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
4. 臨地において当日の実習計画がないものは実習できない。
5. 実習終了後には、老年看護学領域の国家試験過去問題を解いてみることに。

### 【評価方法】

実習評価表に基づいて、老年期の特徴理解（10%）、アセスメント（30%）、社会復帰の理解（5%）、ケアサービスの理解（30%）、職業倫理（25%）の割合で評価する。

### 【テキスト】

老年看護学 I・II で使用したもの

### 【参考文献】

1. 老年看護学 I・II の参考文献
2. 基礎看護学のテキスト
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学 I・II・III のテキストなど

## 老年看護学実習Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、柿山 英津子

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

実習目的 介護老人福祉施設におけるケアサービスを通して、施設の利用者への理解を深め、健康課題に対するケアのあり方を学ぶことができる。

実習目標 高齢者とのコミュニケーションを図ることができる。施設利用者の家族状況が理解できる。

高齢者の健康課題をアセスメントし、必要なケアを安全に実施することができる。

高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる(詳細は臨地実習要項参照)

### 【授業の展開計画】

介護老人福祉施設における臨地実習2週間を設定している。施設名および進め方の詳細などは臨地実習要項参照。

実習配置:実習クール毎に、各施設に2～6名ずつ学生を配置し実習を行う。

進め方 : 1週目の月火 …入所または通所でのケアの理解、多職種のケア経験、受け持ち利用者の決定  
1週目の水木 …受け持ち利用者の情報収集、ケアなど  
1週目の金 …学内で施設ケア理解の確認、利用者アセスメント、個別指導  
2週目の月～木 …受け持ち利用者のケア  
2週目の金 …他の施設での学びを共有、学びの確認、個別面接

### 【履修上の注意事項】

1. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
2. 高齢者に対する尊厳および臨地実習要項に記載してある実習上の注意などを熟読し主体的かつ積極的に実習に臨むこと。
3. 事前学習: 臨地実習要項の項目および看護技術など実習に必要な関連科目の復習
4. 事後学習: 実習での学びを各自振り返り、自身の課題を整理し次の実習につなげる

### 【評価方法】

臨地実習要項に掲載している実習評価表に基づいて、コミュニケーション20%、高齢者アセスメント35%、ケアサービス25%、職業倫理20%で評価する。

### 【テキスト】

老年看護学Ⅰ・Ⅱと同様。

### 【参考文献】

1. 老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義において配布した資料および参考文献
2. その他既習のテキスト

## 精神看護学 I

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志、杉本 啓介

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

1. 精神医療における治療の考え方を知るとともに、精神医療の歴史と現代社会における「心のケア」の特徴について理解する。
2. 主な理論が捉える人間の心のはたらきを人格という観点から概観し、精神的危機への援助を理解する。
3. 精神医療における治療の意味を看護の視点から捉え、精神症状とおもな治療について理解する。
4. 地域精神保健活動やチーム医療における精神看護の役割と課題について考える。

### 【授業の展開計画】

1. 精神障害の基本的考え方を知り、現代の精神保健および心の働きについて理解する。(戸田)
2. 人格の発達理論について学習し、ライフサイクルと精神的危機への援助について理解する。(緒方)
3. 欧米の精神医療の歴史的特徴からその時代の精神障害者に対する処遇の実態を知る。(戸田)
4. 日本の精神医療の歴史において精神保健福祉に関する法律がどのように成立してきたか理解する。(戸田)
5. 社会のなかの精神障害について理解する(法律、尊厳、人権、倫理)。(緒方)
6. 精神疾患を理解するために脳の機能と構造について学ぶ。(杉本)
7. 精神医療における精神障害の診断と分類および主な疾患について理解する。(杉本)
8. 精神医療における主な疾患の症状と治療についての考え方について理解する。(杉本)
9. 精神医療における主な検査および心理療法について学ぶ。(戸田・緒方)
10. 統合失調症患者の看護について学ぶ。(緒方)
11. 気分障害者患者の看護について学ぶ。(戸田)
12. その他の精神疾患患者の看護について学ぶ。(戸田)
13. 精神科病院における行動制限と法的根拠および看護の実際について学ぶ。(緒方)
14. 精神科における身体ケアの必要性および実際の援助について理解する。(戸田)
15. 精神医療における治療と看護についてのまとめ。(戸田・緒方)

### 【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する。

### 【評価方法】

定期試験80%、レポート等の提出物20%

### 【テキスト】

- 1) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の基礎、精神看護学①、医学書院 2017.
- 2) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の展開、精神看護学②、医学書院 2017.

### 【参考文献】

- 1) 川野雅資：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規出版(株)、2011.
- 2) 太田保之、上野武治編集：学生のための精神医学、医歯薬出版、第2版、2000.

## 精神看護学Ⅱ

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 精神症状に対する看護援助の特徴と意義を理解し、患者がどのような点で生きにくさを感じているのか理解する。
2. 入院から退院までの治療および看護について理解する。
3. 精神障害とうまく付きあいながら地域で生活するために必要な社会資源などについて理解する。
3. 精神看護における看護過程の展開について理解する。

## 【授業の展開計画】

1. 精神科におけるケアについて学ぶ。(戸田)
2. 精神看護学で用いるおもな理論とプロセスレコードについて学ぶ。(戸田・緒方)
3. プロセスレコードの活用方法について学ぶ。(戸田・緒方)
4. 自己の体験した援助場面を一定の記載方法に基づいてプロセスレコードに再構成することができる。(戸田・緒方)
5. 当事者の話から対象者理解および精神看護について学ぶ。(特別講師)
6. 精神科看護過程について学ぶ(情報収集および情報の整理)。(戸田・緒方)
7. 精神科看護過程について学ぶ(アセスメント、問題点の抽出、看護計画立案)。(戸田・緒方)
8. 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際①)。(戸田・緒方)
9. 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際②)。(戸田・緒方)
10. 精神科で行う治療プログラムについて学ぶ。(コミュニケーション技法、作業療法、認知行動療法)(緒方)
11. 精神科リハビリテーションと外泊・退院の援助について理解する。(戸田)
12. 継続看護の必要性和地域精神看護および社会資源の活用について理解する。(精神科訪問看護、精神科デイケア)(戸田)
13. リエゾン精神看護および看護師のメンタルヘルス。(緒方)。
14. グループでまとめた看護過程について発表し、精神科看護過程について理解を深める。(戸田・緒方)
15. 精神看護の目的と対象者についてまとめる。(戸田・緒方)

## 【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読み、キーワードを押さえ、自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。講義内容は専門性が高いので、学生の理解度に合わせて授業の展開方法を変更することがある。グループ・ワーク形式においては、積極的に参加し理解を深めること。

## 【評価方法】

定期試験80%、レポート等の提出物20%

## 【テキスト】

- 1) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の基礎、精神看護学の展開、医学書院 2017.
- 2) 白石壽美子：全人的視点にことづく精神看護過程、医歯薬出版(株) 2014.

## 【参考文献】

- 1) 長谷川雅美：自己理解・対象理解を深める『プロセスレコード』、日総研出版 2009.
- 2) 岡田佳詠：看護のための認知行動療法、医学書院 2011.

## 精神看護学実習

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

実習目的は、精神看護学で学んだ知識をもとに、精神症状によって「生きにくさ」を感じている対象者と家族への援助の必要性を認識し、その対象者に合った援助を実施・評価すること。また、これらの援助を通して精神保健看護に必要な基本的能力を養うこととする。実習目標は、実習要項を参照すること。

### 【授業の展開計画】

精神医療施設における実習2週間を設定している。詳細については、実習要項を参照すること。

施設名：荒尾こころの郷病院, 向陽台病院, 城ヶ崎病院, 山鹿回生病院 (50音順)

実習配置：5グループのローテーションとする。

- ・4病院に分け、さらに各病棟2～4名ずつの配置とする。
- ・施設における実習を主とし、学内日は別途指示した日とする。

### 【履修上の注意事項】

1. 6月中旬に提示する事前学習項目に沿って学習し、レポートを作成し提出する。事前学習をした内容は実習中に活用すること。
2. 事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。(日程は後日掲示する)
3. 自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。

### 【評価方法】

実習評価表に基づいて総合的に評価する。

### 【テキスト】

精神看護学Ⅰ、Ⅱの講義で使用したもの。

### 【参考文献】

1. 精神看護学Ⅰ、Ⅱの参考文献
2. 基礎看護学のテキスト、
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのテキストなど。

## 母性看護学 I

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人間の健康を性と生殖に関する側面から捉え、母性看護学の基盤となる概念について理解できる。

また、母性看護の現況と動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。

女性の生涯における発達課題と諸問題を理解した上で、母性看護の具体的な支援のあり方について述べるができる。

## 【授業の展開計画】

- 母性看護学の基盤となる概念や、母性看護領域における対象となる人々の特徴や健康現象についての基礎知識を修得する。
- 人間の健康を性と生殖の側面から捉え、人生の各ステージにおけるセクシュアリティについて理解する。
- 現代女性のライフサイクル各期における健康の諸問題やニーズを理解し、個人や家族に対しての健康支援のあり方について学習する。

週	授 業 の 内 容	
1	母性看護の概念とその特質(母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい、)	緒方
2	人間の性と生殖 1 (人間の性の特徴・性行動、人生の各ステージのセクシュアリティ)	緒方
3	人間の性と生殖 2 (セクシュアリティの発達と課題, 性的マイノリティ, ヒトにおける性の決定)	緒方
4	女性生殖器の構造と機能(性周期とホルモン動態)、受胎のメカニズム	緒方
5	社会と母性保健(1)生活環境、母子保健統計の動向・母子保健行政のあゆみ、関係法規、	緒方
6	社会と母性保健(2)母子保健施策、母子健康手帳、女性の労働と子育て、母性看護の場と職種	緒方
7	母性看護の沿革と現況 (日本の母性看護の発達—近代以前、近代以降、現代)	緒方
8	リプロダクティブヘルス・ライツ (妊娠をめぐる女性の選択、母性看護における看護倫理)	牛之濱
9	家族計画、避妊(受胎調節法と避妊法)	牛之濱
10	女性・家族のライフサイクル(現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族の発達段階)	緒方
11	女性のライフステージ各期の特徴と保健(1) (思春期)月経異常、性感染症、人工妊娠中絶	緒方
12	女性のライフステージ各期の特徴と保健(2) (成熟期)育児不安、DV、産後うつ、喫煙	緒方
13	女性のライフステージ各期の特徴と保健(3) (更年期・老年期)更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症	緒方
14	出生前診断を受けるカップルの看護ケア、不妊カップルの理解と看護	緒方
15	ハイリスクな状況にある人々への看護(危機援助、ハンディキャップをもつ母子への看護)	緒方

## 【履修上の注意事項】

出席は重視します。出席できない事情があるときには必ず申し出て下さい。

講義初日に、授業展開日程表を配布するので、その分野を予習・復習しておくこと。

授業中に練習問題を配布するので、それに関連する分野を予習・復習して期末テストに備えること。

## 【評価方法】

1. 期末試験 原則100%です。

2. レポートの提出がなければ減点することもあります。

## 【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1]、医学書院』、『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護[2]、医学書院』、『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学9]、医学書院』

## 【参考文献】

国民衛生の動向、前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性 I、母性 II』, 中央法規

## 母性看護学Ⅱ

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代、森口 範子、渡邊 弥生

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

周産期にある母子やその家族に生じるさまざまな変化と変化に伴う対象の反応を学び、セルフケア能力を高める援助、健康逸脱時のケア、安全な母性看護技術、看護過程の展開技術などについて修得することができる。

## 【授業の展開計画】

周産期は、女性のライフステージの中で最もダイナミックな身体的変化を起こす。母体の健康状態は、母体のみならず胎児・新生児の発育や健康状態にも直接影響を及ぼす可能性が高い。この科目では、周産期における母性・胎児・新生児の健康保持・増進・異常の予防(保健相談、管理、臨床的な看護技術)を修得する。また、ハイリスクな状況にある人々への看護(妊娠・分娩期におこりやすい主な異常や疾患と看護、産褥・新生児期に起こりやすい異常や疾患と看護)を理解する。

週	授 業 の 内 容
1	妊娠期の看護Ⅰ：(妊娠成立と妊娠に伴う母体や胎児の変化、妊娠期の心理・社会的特性) 牛之濱
2	妊娠期の看護Ⅱ：(妊婦と胎児の健康アセスメント、妊婦の健康管理、妊婦の日常生活とセルフケア) 牛之濱
3	妊娠期の看護Ⅲ：(妊婦と家族の看護、親になるための準備教育) 牛之濱
4	分娩期の看護Ⅰ：(分娩の三要素と正常分娩の臨床経過) 渡邊
5	分娩期の看護Ⅱ：(分娩第1, 2, 3期及び分娩直後の看護、産婦の安楽及び家族に対する看護) 渡邊
6	新生児期の看護Ⅰ：(子宮外適応過程機序、新生児の身体的特徴と看護、新生児期の異常含む) 森口
7	新生児期の看護Ⅱ：(新生児の栄養、児との関係確立への援助) 森口
8	産褥期の看護Ⅰ：(産褥期の生理と臨床経過) 全身・子宮復古、乳汁分泌、産褥器の異常含む 緒方
9	産褥期の看護Ⅱ：(産褥期のケア) 産褥期の身体回復への看護、母乳哺育支援、母親適応過程 緒方
10	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅰ：(妊娠期の異常と看護) 流早産, 妊娠高血圧症候群等 牛之濱
11	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅱ：(分娩期の異常と看護) 微弱陣痛, 帝切, 異常出血等 牛之濱
12	妊産褥婦・新生児のケア技術演習 緒方、牛之濱、森口、渡邊
13	母性看護過程：(母性看護の特徴とウェルネス看護診断、事例による看護過程展開演習) 牛之濱
14	母性看護過程：(産褥初期の褥婦、新生児の看護事例展開演習、臨地実習で展開方法) 牛之濱
15	産褥期の看護Ⅲ：(産褥期の母子と家族に対する看護援助、育児支援) 緒方

## 【履修上の注意事項】

出席は重視します。出席できない事情があるときには必ず申し出て下さい。

講義初日に、授業展開日程表を配布するので、その分野を予習・復習して授業に臨んで下さい。

授業中に、演習のための課題レポートや練習問題を配布するので、それに関連する分野を予習・復習して、演習や期末テストに備えて下さい。

## 【評価方法】

1. 期末試験 原則100%です。
2. 再試験の際には、課題レポートの結果がよければ1～3%の平常点を追加することもあります。

## 【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2] 医学書院』、『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1] 医学書院』、『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9] 医学書院』

## 【参考文献】

『太田操, ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版, 医歯薬出版. 2009』、『平澤美恵子, 村上睦子, 写真でわかる母性看護技術, インターメディカ』

## 母性看護学実習

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代、森口 範子、渡邊 弥生

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、母性看護学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識・技術を実習を通して統合し、母性看護の特殊性を考慮した看護の実践ができる基礎能力や態度を養うことができる。

### 【授業の展開計画】

#### 【教育目標】

1. 妊産褥婦とその家族にとっての子どもを産み育てることの意味と支援のあり方を考えることができる。
2. 親となる過程における健康課題・発達危機の状況を理解し、母児に対してどのような看護ケアが必要であるのかを理解することができる。
3. 妊産褥婦と児の健康状態および家族を含めた母児のニーズをアセスメントし、看護計画の立案・実施・評価ができる。
4. 地域社会における母児の健康サポートのあり方を学び、妊娠、分娩、産褥期にある母児とその家族を取り巻く社会システム・継続ケアについて学ぶことができる。
5. 母子保健チームの中での看護の役割とサービスのあり方を考えることができる。
6. Theme Reportやカンファレンスを通し、母性看護学の統合を図り、看護者としての問題提起や研究を行う素地を養うことができる。

#### 【授業内容】

1. 出産前後の母児の受け持ちや外来を訪れる妊婦や母児との関わりを通して、妊産婦や母児の体験を学習する。
2. 看護師/助産師とともに行動し、妊産褥婦および新生児や家族に対してどのような看護ケアが行われているのかを学習する。  
ex. 褥婦の観察・悪露交換・乳房ケア・授乳指導・新生児の観察・沐浴・育児支援・妊婦健診・胎児管理(NST)・母乳外来・母親学級など
3. 受け持ち対象母児の健康課題・健康問題について、情報収集・分析・看護計画の立案・実施・評価を行う。
4. Theme Reportやカンファレンス、教員との面接を通して周産期の対象理解や自己課題の学びを深める。

### 【履修上の注意事項】

出席は重視します。(欠席は減点評価になります。)

母性看護学実習の事前準備として、ワークブック(一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集)を仕上げ、実習直前にもその内容を復習して実習に臨んで下さい。

また、実習中の課題としてテーマレポートの作成がありますので、事前にテーマを決め、それに関する文献を読み、臨床での実践計画を立てて、事前チェックを受けてから実習に臨んで下さい。

#### 【評価方法】

1. 実習態度(予習・復習、主体性、記録物の提出)12%
2. 毎日の実習記録(役割理解、看護過程、実践・記録)49%
3. Theme Report 30%、カンファレンスの運営および参加状況9%
4. 欠席・遅刻の状況によっては、減点が検討されることがあります。

#### 【テキスト】

系統看護学講座『母性看護学概論, 母性看護学①』医学書院、系統看護学講座『母性看護学各論, 母性看護学②』医学書院、系統看護学講座『女性生殖器, 成人看護学⑨』医学書院、

#### 【参考文献】

母性看護学のテキスト・参考文献, および講義・演習時の配布資料

## リハビリテーション看護

担当教員 山本 恵子、掃本 誠治、岡田 裕隆、柿山 英津子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

リハビリテーションに関連する法律やチームアプローチを学び、障害を持つ人のアセスメント・健康課題・評価・看護実践を理解することができる。リハビリテーションを必要とする人の持つ力に気づき、その力を最大限に活用し生活を再構築するための基礎知識を身につけることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーション看護とは：定義、領域、歴史、対象、概念（山本）
2	障害者をめぐる法律、倫理、チームアプローチ（山本）
3	リハビリテーション：理学療法士の立場から（岡田）
4	生活の再構築とは：「私を知る」から始める（山本）
5	アセスメントの視点と看護介入：サルコペニア：定義、日常生活の注意など（未定）
6	アセスメントの視点と看護介入：活動-運動、睡眠-休息（山本）
7	アセスメントの視点と看護介入：摂食・嚥下、自助具の工夫（山本）
8	アセスメントの視点と看護介入：排泄（山本）
9	アセスメントの視点と看護介入：呼吸・循環（未定）
10	アセスメントの視点と看護介入：高次脳機能 *社会の態度、性を含む（山本）
11	疾患・障害別のリハビリテーション 言語障害：原因と症状、コミュニケーションの工夫（柿山）
12	疾患・障害別のリハビリテーション 地域リハビリテーション（未定）
13	疾患・障害別のリハビリテーション 視聴覚障害、聴覚障害者（柿山）
14	疾患・障害別のリハビリテーション 脳血管障害：最新治療とリハビリテーション看護（特別講義）
15	疾患・障害別のリハビリテーション 神経疾患：パーキンソン病（山本）

## 【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があっても無効です。
- ・事前学習：授業展開を参考に教科書を熟読して受講してください。
- ・事後学習：毎回、教科書やプリントを参考に各自復習し理解をするようにしましょう。

## 【評価方法】

定期試験100%

## 【テキスト】

『ナースング・グラフィカ成人看護学(6) リハビリテーション看護』、奥宮暁子他、MCメディカ出版、2016。

## 【参考文献】

『Nursing Selection11 リハビリテーション看護』、奥宮暁子他、Gakken学研メディカル秀潤社、2010。  
『運動機能障害』、石川ふみよ他、MCメディカ出版、2014。

## 看護専門演習 I

**担当教員** 宮里、緒方妙、生野、福島、福本、山本、牛之濱、二宮、川本、中川、松岡、落合、緒方浩、喜多、柿山、島村、戸田、森口、新任教員

**配当年次** 3年

**開講時期** 第1学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 演習

**単位数** 2

**準備事項**

**備考**

## 【授業のねらい】

1. 既習の知識と技術を総合的に確認し、実習開始に向けた心構えと意識づけとなる学習内容を展開する。
2. 本大学が学外実習を依頼している施設を見学し、実習開始に向けた情報収集の機会とする。

## 【授業の展開計画】

1. 看護学の学習において、3年生で習得する実習の位置づけ・目的・意義、及び対象者について理解することができる。
2. 各看護学領域の講義・演習・見学をとおして、実習目的・目標・方法について理解することができる。領域によって5月～6月に大学が実習を依頼している主な施設を見学する。施設見学の日程・場所・対象学生については、別途資料にて説明する。

4月25日1時限：全体オリエンテーション

5月	母性看護学	講義・演習	4コマ		
	老年看護学	講義・演習	2コマ		
	介護老人保健施設	施設見学	1コマ		
	介護老人保健施設	施設見学	1コマ		
	地域看護学	講義・演習	施設見学	まとめ	4コマ
6月	成人看護学	講義・演習	4コマ		
	成人看護学	病院見学	1コマ		
	精神看護学	病院見学	1コマ		
	精神看護学	講義・演習	2コマ		
	小児看護学	講義・演習	4コマ		
	小児看護学	施設見学	1コマ		
	在宅看護論	講義・演習	4コマ		

## 【履修上の注意事項】

1. 本科目を履修するにあたって、講義毎に習得した科目の復習を計画的に行い講義に臨むこと。
2. 講義、施設見学等の終了後は復習、レポート作成を通して振り返りを行い、知識を確実なものとする。
3. 本科目の講義は、原則として、週に2～3日、実施予定である。
4. 施設見学の際は、看護学生にふさわしい清楚な服装（白ブラウス・シャツにスーツ）・容姿等に整えること

## 【評価方法】

1. 施設見学、課題等のレポート及びグループワークを50%、学外実習に向けての抱負を50%で評価する。
2. 評価の視点、レポートのテーマ、及び提出期限については、別途資料を用いて説明する。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

- ・日本看護協会：看護者の基本的責務一定義・概念／基本法／倫理.
- ・各看護学領域の実習に必要な教科書・プリント、文献等

## 看護専門演習Ⅱ

担当教員 二宮、生野、山本、開田、松岡、緒方、落合、柿山、戸田、未定

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は履修者が10名未満の場合閉講

## 【授業のねらい】

地域包括ケアシステムを担う一員として、地域で療養する人やその家族に対し、既習の講義および実習等で培った知識・技術・態度を統合して、質の高い自立支援を考えることができる。また、グループワークを通して自律した学習能力を身に付け、卒業後に専門職として多職種との連携・協働する際の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けることができる。

## 【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション、看護を取り巻く社会状況□二宮
- 2 3～10回進め方、事例1-1提示、成長発達等項目毎に個人ワーク終了後、GW、発表(2～3G)、事例1-2提示、二宮、松岡
- 3 成長発達の関連法規・社会資源、事例1-2：個人ワークまとめ、GW後、成長発達のまとめ（講義）二宮、松岡
- 4□事例1-2：病態と成長発達の統合、グループワーク、事例1-3提示□二宮、松岡
- 5□事例1-3：個人及び家族のQOLの視点で個人ワーク後、グループワーク□二宮、松岡
- 6□事例1-3のグループワーク、発表（2～3グループ）□二宮、松岡
- 7□事例1-3のまとめ□二宮、松岡
- 8□小児の在宅移行：NICUの看護、専門看護師の役割など（講義）二宮、松岡
- 9□在宅移行後の教育、福祉などの資源活用と協働：個人ワーク、グループワーク、まとめ□二宮、松岡
- 10□まとめ：地域包括ケアシステムにおける小児看護の視点 二宮、松岡
- 11□認知症高齢者が在宅療養生活を維持するための支援、事例2の説明およびGWの進め方生野、山本、柿山
- 12□事例2検討：グループワーク□生野、山本、柿山
- 13□高齢者のうつと認知症に対するコミュニケーション□戸田、緒方
14. 15□事例2検討：グループワーク□戸田、緒方
16. 17□事例2検討：グループワーク□生野、山本、柿山
18. 19□事例発表および検討会□生野、山本、柿山
- 20□事例検討からの学び□生野、山本、柿山、戸田、緒方
- 21□在宅療養支援における医療と介護の連携強化について 開田、落合、未定
- 22□事例3の説明およびグループワークの進め方□開田、落合、未定
- 23-26□住み慣れた地域で本人と家族がその人らしく生活するための支援、事例3検討：GW・講義□開田、落合、未定
- 27-28□在宅療養を支えるための倫理的課題 開田
- 29-30□地域包括ケアシステムに置いて看護職に求められるつなぐ力について考える（話合とまとめ）開田、落合、未定

## 【履修上の注意事項】

- ・事例検討に際しては、事前に学習してグループワークに臨むこと
- ・場合によっては、集中講義とすることがある。その際は、別途連絡する。

## 【評価方法】

配点割合は、事例1で30%、事例2で30%、事例3で30%、全体の学びで10%とする。  
事例評価の視点は、事例からの学びが50%、発表およびグループワークが50%とする

## 【テキスト】

- ・適宜提示

## 【参考文献】

- ・適宜提示

## 看護専門演習Ⅲ

担当教員 宮里 邦子、田中 紀美子、上妻 尚子、松岡 聖美、喜多 麻衣子、島村 美香、古堅 裕章

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この演習のねらいは、健康障害を持つ対象を理解して、状態に応じた看護ができるための基礎能力を身に付けることである。基礎科目、専門基礎科目で学んだことを看護する立場からとらえ返し、知識を統合させながら対象を理解していく。複雑な事例を使い対象理解の作業を行う中で今まで学習してきたものをどう使っていけば看護の必要性が見えてくるか、今後どういった力をつけていけば良いか、学生自身で努力目標が描けるようになることを期待する。学期末まとめ：複雑な事例を解く過程から、科学的思考力を高め学生自身の看護観を培う。

## 【授業の展開計画】

<事例を分析していく時、看護の方向性が浮かび上がってくるような対象の見つめ方を学ぶ>

1. 複雑な健康障害を持つ人の紙上事例を通して、どのような問題構造があるのかを身体的・心理的・社会的側面から分析してアセスメントする。

第1回事例1：HT、DMでニューロパティ、網膜症、腎症にまで至ってしまい、無症候性虚血性心疾患と慢性心不全状態とわかった事例

第2回事例2：慢性閉塞性呼吸器疾患患者が、CO<sub>2</sub>ナルコーシスを起こし重度の呼吸不全状態に陥った事例

第3回事例3：5歳男児で急性リンパ性白血病を発症した小児看護の事例

化学療法を受ける患者の看護、ステロイド治療を受ける患者の看護、骨髄移植を受ける患者の看護等を含む

第4回事例4：すい臓がんの事例でPD手術、膵体尾部切除術を受ける患者の看護

すい臓がんにおけるPD手術は、消化器手術全般について学ぶことができる。

2. 項目1の事例をもとに問題の一般性、特殊性、個別性を見出し、対象の生活過程を整える方法を考えることができるようになる。

以上の1.2を講義とグループワークで展開し、グループごとの事例発表を行う。

<まとめとして>

4年間を振り返り、学生自身の「人間観」「生命観」そして、「看護とは」についてまとめを行う。

このまとめは、卒業を前にして「看護のあり方・居かた」の再確認となる。

参考：ナイチンゲールの看護論、今までの学習してきた看護論を物差しとする。

時間割：時間割の空いている時間を活用するために曜日、時限は不定である。

日程については、別途配布する。

## 【履修上の注意事項】

複雑な事例であるが、既習の教科書や講義録を参考にしながら見ていけば、問題構造は見えてくる。この時、看護の視点からの病気のとらえ方と、その癒しの過程に関心を向けるようにすること（看護の視点）を学んでいこう。また、演習は看護の国家試験の学習強化にもつながるだろう。各事例の疾患に関して事前学習で演習に臨む。また各演習後は、事例に関する復習を行ってレポート作成を行い提出する。

## 【評価方法】

①レポートの提出状況、グループワークへの参加状況と発表内容を評価対象とする。

②課題レポート：演習の目的・目標をもとに、各事例についての振り返りを行い、自分自身の現在の課題を明らかにする。また「看護観」についての整理をする。①を30%評価②を70%評価とする。

## 【テキスト】

基礎科目、専門基礎科目等の既習の教科書すべてが参考書である。

## 【参考文献】

基礎科目、専門基礎科目等の既習の教科書すべてが参考書である。講義録も参考文献とする。

## 関係法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、コメディカルの法的位置づけを理解する。
2. 医療専門職である看護師に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
3. 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
4. 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、看護師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	看護師と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	看護師と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——看護師の過失
11	身体拘束と看護事故——裁判例の分析、看護と介護
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療者の義務、医事法の構造と射程

## 【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

## 【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

## 【テキスト】

野崎和義著『コ・メディカルのための医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。  
野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 在宅看護論実習

担当教員 開田 ひとみ、落合 順子、未定

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

地域で生活しながら療養する人々とその家族に在宅で提供する看護の実際を訪問看護ステーションを中核とした実践活動から理解し基礎的な看護技術を身につけ、多職種と協働する中での看護の役割を再考できるように教授する。

### 【授業の展開計画】

#### 【実習目的】

1. 人権尊重を基盤とした人の暮らしと、健康を創るための法律や関連機関との連携及び継続看護の重要性を実例から学ぶ。
2. 地域の中で健康障害をもちながら療養生活をする人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割について訪問看護師の実践活動から学ぶ。

#### 【実習目標】

- 1) 在宅療養者とその家族の生活と主体性を尊重しQOLの向上をめざす看護活動を理解する。
- 2) 在宅療養者とその家族への援助の実際を通して訪問看護の役割とその援助方法を理解する。
- 3) 在宅看護に必要な社会資源の活用とケアマネジメントの重要性を理解する。
- 4) 在宅看護に関連する保健・医療・福祉専門職との連携の重要性と看護職の役割を理解する。
- 5) 看護を展開する上での自己課題を明確にすることができる。

#### 【実習展開】

「臨地実習要項」参照

#### 【履修上の注意事項】

- ・科目「在宅看護論」を必ず単位修得しておくこと。
- ・科目「在宅看護論」の授業内容を復習しておくこと。
- ・実習開始前に提示される課題と学習項目については予習を行い、提出期日迄に必ず提出すること。
- ・「臨地実習要項」を実習開始迄に熟読し、実習中体験した内容は既習内容と照合しながら毎日復習すること。

#### 【評価方法】

- ・実習全般の態度／実習記録：80%
- ・課題レポート：20%

#### 【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院
- ・科目「在宅看護論」で配布した資料や提示した参考文献

#### 【参考文献】

- ・随時提示

## 公衆衛生看護学概論

担当教員 福本 久美子、中川 武子、未定

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけを理解し、公衆衛生看護学の基本的理念と目的、その対象や活動方法の特性について、基本的な知識と考え方を学習し、公衆衛生看護学の全体像を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	福本	看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけ、継続看護
2	福本	公衆衛生看護学の理念と目的
3	福本	公衆衛生看護学の歴史
4	(未定)	公衆衛生看護の対象
5	中川	社会環境の変化と健康課題 1
6	福本	社会環境の変化と健康課題 2
7	福本・中川・(未定)	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW)
8	(未定)	保健行動と保健活動
9	(未定)	保健行動とヘルスリテラシー (がん検診受診行動から)
10	福本・中川・(未定)	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW発表)
11	福本・中川・(未定)	GW(公衆衛生看護と保健師)のまとめ、コミュニティエンパワメント
12	中川	公衆衛生看護学の活動分野の特徴と広がり
13	福本(外部)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴 (行政・福祉)
14	福本(外部)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴 (産業)
15	福本・中川・(未定)	公衆衛生看護学の活動方法、国際協力、授業まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 講義の予習復習を行うこと。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。
- 3) 学外での公衆衛生看護学関連の講演会等 (紹介) に積極的に参加すること。

### 【評価方法】

レポート20点 (止むを得ない場合を除き、期日まで提出がない場合は減点)、GW20点、試験60点

### 【テキスト】

1. [公衆衛生看護学] 荒賀直子他編集 インターメデカル
2. [国民衛生の動向] 厚生統計協会

### 【参考文献】

1. 「健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか」 近藤克則著, 医学書院
2. 「保健師—普通を守る仕事の難しさ—」 荘田智彦著, 家の光協会
3. 「そよ風と暮らしと健康」 熊日出版
4. その他随時紹介。

## 看護マネジメント

担当教員 福島 和代

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

質の高い看護を提供するための看護サービスのしくみやサービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎知識を習得し、自分のキャリア発達について考えることができる。

### 【授業の展開計画】

看護におけるマネジメントは、対象者に提供する最適なケアを調整・展開・評価することであり、そのための一連の活動である。対象者に提供される看護ケアのマネジメントと看護職が提供するサービス全体を組織としてとらえて提供する看護サービスのマネジメントがある。新人看護師であっても組織の一員として、専門職としての役割・責任が求められる。看護サービスを提供する専門職として必要な基礎知識を習得し、病院づくりのグループダイナミクスを通して自分のキャリア発達について考える。日時についての変更は、別途スケジュールを提示する。

週	授 業 の 内 容
1	看護マネジメントとは マネジメントのプロセス
2	看護管理過程 看護管理の歴史
3	組織の成り立ちと構造
4	看護のケア提供システム
5	医療関係職種とチーム医療
6	看護サービスと質の保障
7	リスクマネジメント（安全管理）
8	リスクマネジメント（感染管理） リーダシップとメンバーシップ
9	専門職と法・倫理
10	キャリア発達 レポート課題提示
11	医療制度と政策・診療報酬制度
12	グループワーク1：病院づくり（地域のニーズ、病院組織の理念、規模）
13	グループワーク2：病院づくり（どんな看護師を育てたいか）
14	グループワーク3：病院づくり（看護師のキャリア開発のためのシステム）
15	グループワーク4：病院づくり（全体発表、プレゼンテーション）

### 【履修上の注意事項】

教科書で事前学習をし、事後も講義資料と照らし合わせて復習をすること。グループワークでは、地域のニーズに応じた理想の病院づくりを行なうが、既成概念にとらわれない自由な発想を重んじる。事前に就職パンフレットや病院ホームページから情報収集して望むこと。

### 【評価方法】

評価基準は「課題レポート90%、発表10%」とし60点以上を合格とする。

### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕医学書院

### 【参考文献】

系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践〔2〕医学書院、中西睦子編 看護サービス管理 医学書院、井部俊子/中西睦子監修：看護管理学習テキスト第1～8巻・別巻 日本看護協会出版会

## 家族看護学

担当教員 二宮 球美、生野 繁子、開田 ひとみ、緒方 浩志

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

家族を1つのユニットとして捉え援助していくことの重要性と家族支援に関する基礎的な知識と能力を養うことを目的に、家族の基本的概念・機能、家族看護の概要、家族看護のプロセスについて理解することができる。事例によって、各健康・社会的な傷害をもつ患者を中心とした家族のケアを学び、実践である各々の実習での展開の基礎とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I 家族の基本概念を理解することができる -1家族とは -2家族の変遷 生野
2	-3家族の機能と構造 -4家族看護の目的 生野
3	II 男女共同参画の理念と家族看護を理解することができる -1男女共同参画社会の形成 生野
4	-2現代日本家族の変化 -3家族に起因する問題 生野
5	III 家族看護の概要、理論を理解し、家族支援に活用することができる -1歴史、目的 二宮
6	-2家族看護学に用いられる理論枠組み -3家族看護学に用いられるアプローチ 二宮
7	-4家族看護研究 二宮
8	IV 家族看護の実際を学ぶことができる -1家族看護過程とその特徴 二宮
9	-2家族看護における看護者の役割と援助姿勢 開田
10	-3在宅療養における家族看護の実際 開田
11	V 家族看護の展開を経験できる -1ライフサイクルからみた家族支援 二宮
12	-2健康レベル、ケアニーズからみた家族支援 家族の誕生 二宮
13	-3手術を受ける家族 -4ターミナルを迎える家族 二宮
14	-5認知症患者と家族 -6 精神障害者と家族 緒方浩志
15	家族看護のまとめ 二宮

### 【履修上の注意事項】

各ライフステージの看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。既習科目との統合、具体的事例展開などがありますので、事前に渡された課題については学習をし、当該テキストについては事前学習を行って講義に臨むこと。また、事後学習において既習科目との統合を図るレベルまでに達するような学習を行うこと。\*課題の提出を求めた場合は、コピーをしておくこと(返却の有無や方法が異なるため)。

### 【評価方法】

出席の2/3以上を持って評価の対象とする。今回15回の間担当教員ごとの評価を行う。生野：課題Report、開田・二宮・緒方：テスト 講義の割合に応じた配分での按分をしこの科目の評価とする。

### 【テキスト】

『家族看護学』理論と実践 第4版 鈴木和子・渡辺裕子(著) 日本看護協会出版会

### 【参考文献】

『家族看護学—理論とアセスメント』野嶋佐由美 へるす出版、『ファミリーナーシングプラクティス』 森山美知子 編集 医学書院、「家族関係論」医学書院 国民衛生の動向、配布印刷教材

## 看護教育学

担当教員 生野 繁子、福島 和代、福本 久美子、山本 恵子、牛之濱 久代、

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は履修者が4名以下の場合閉講

## 【授業のねらい】

&lt;教職科目を選択していない学生に標準をあわせている&gt;

1. 専門職としての看護がどのような看護教育制度を持ってるのかについて、過去・現在・未来を概観できる。
2. 看護師免許取得後の看護職の生涯学習について展望し、キャリアデザインに活かすことができる。

注) ディスカッションやグループワークに重点を置いており、履修登録者が4名以下の場合には閉講を検討する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	導入	1. ガイダンス (生野)
2	I 看護教育制度	2. 看護史と看護教育(見学研修含む)(生野)
3		3. 看護教育制度の現状 (山本)
4		4. 看護教育制度の未来 (山本)
5		5. 保健師教育制度の変遷 (福本)
6		6. 保健師教育制度の未来 (福本)
7		7. 助産師教育制度の変遷 (牛之濱)
8		8. 助産師教育制度の未来 (牛之濱)
9		II 生涯教育
10	10. 看護師の卒後教育の変遷 (福島)	
11	11. 病院における卒後教育の実際 (福島)	
12	12. 専門職の職能団体と生涯学習 (生野)	
13	III まとめ	13. 看護教育についてディスカッション(生野)
14		14. これからの看護教育グループワーク(生野)
15	15. 発表	(生野)

## 【履修上の注意事項】

- ・ 1年次の看護学概論を復習しておくこと。
- ・ 大学4年間の集大成と考えてディスカッションでは積極的に意見を述べること。
- ・ 新人看護師として望む現任教育内容をイメージしておくこと。
- ・ 臨地実習履修のための欠席を避けるため、履修確定後、講義日程の調整を実施する。
- ・ 日程調整し、近隣の看護史関係施設の見学を実施する。

## 【評価方法】

課題レポート50%・発表内容30%・ディスカッション時の発言内容20%の割合で総合的に評価する。

## 【テキスト】

「看護学概論」4年次生は既に購入済み

## 【参考文献】

1. 最新版「看護六法」新日本法規、2. 最新版「看護関係統計資料集」日本看護協会出版会、
3. 最新版系統看護学講座別巻「看護史」医学書院、他は随時紹介する

## 国際保健活動論

担当教員 秦 亮

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

国際保健分野において、実際にどのような活動が実施されているのか。国際協力を実行する際には、どのような問題を抱えているのか。また、我が国は国際保健分野において、どのような役割を果たしているのか。これらの質問を考えながら、国際保健の歴史を通じ、世界各地における健康対策プロジェクトや医療保健調査などを学んでいく。また、災難による危機管理や、感染症対策などのトピックスを取り組んで地球規模の健康問題を勉強し、国際保健現場における必要な能力を習得するのを目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国際保健の歴史的回顾と日本保健医療の概観
2	日本保健医療の経験と世界への応用に向けて
3	途上国における健康問題
4	ヘルス・プロモーションの歩み方
5	国際保健医療分野におけるセクター・プログラム・アプローチの動向
6	紛争／災難後の復興と国際医療保健
7	災難と危機管理：スマトラ島沖地震から学ぶ
8	紛争時、紛争後における国際保健?メンタル・ヘルスの役割について
9	母子保健分野において、国際協力事業からの経験
10	世界の人口問題における新動態
11	結核対策から見た国際保健協力のあり方
12	エイズの予防と国際保健活動
13	インフルエンザ対策について
14	新興感染症対策について（SARSの事例を中心に）
15	国際保健分野における渡行医学の役割について

## 【履修上の注意事項】

授業後に復習しておくこと。

## 【評価方法】

講義中課題への取り込み(20%)・発表(10%)・期末レポート(70%)により総合的に評価する。

## 【テキスト】

日本国際保健医療学会編「国際保健医療学」杏林書院

## 【参考文献】

高橋茂樹等編「公衆衛生」第九版 海馬書房

Paul F. Basch「Textbook of International Health」Oxford university press

## 看護政策論

担当教員 宮里、柴田、サザランド、李、高、島村

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は履修者が5名未満の場合閉講

### 【授業のねらい】

日本の看護政策の変遷を理解し、それらに影響する社会背景に関心を持つことで、看護専門職としての自己の役割を考える。また、諸外国の保健医療制度と看護政策を知り、視野を広げあらためて日本の看護政策の課題について理解を深める。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会背景と看護教育の変遷 (宮里)
2	社会情勢と看護政策の変遷 (宮里)
3	わが国の看護制度の歴史：養成（資格）制度と法的根拠 (柴田)
4	わが国の看護制度の歴史：看護職資格の多様性と養成制度 (柴田)
5	英国の保健医療制度 (A. j. sutherland)
6	英国における看護政策 (A. j. sutherland)
7	中国の医療保険制度 (高)
8	中国の看護の現状と課題 (高)
9	韓国の保健医療制度 (李)
10	韓国における看護政策 (李)
11	看護職をめぐる近年の動き (島村)
12	ヘルスケアシステムの現状と課題 (島村)
13	グループワーク：関心のあるテーマを選び概要を知る。 (宮里・島村)
14	グループワーク：テーマについてディスカッションする。 (宮里・島村)
15	グループワーク発表、まとめ (宮里・島村)

### 【履修上の注意事項】

1. 授業の前には、内容に関連する情報について予習をして受講すること。
  2. 受講後は、復習やレポート作成を通して、知識の整理をすること。
- ◎講義日程の変更もあり得るので確認すること

### 【評価方法】

課題レポート(50%)・グループワーク(30%)・講義への参加度(20%)の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 看護統合演習 I

**担当教員** 福島、緒方妙、生野、宮里、山本、牛之濱、二宮、開田、川本、中川、松岡、緒方浩、落合、柿山、喜多、島村、戸田、古堅、森口、渡邊、未定

**配当年次** 3年

**開講時期** 第1学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 演習

**単位数** 1

**準備事項**

**備考**

### 【授業のねらい】

2年次に修得した各領域の専門的知識・技術を応用し、より臨地に近い状況での模擬対象者に対し看護過程を実践する。模擬対象者は6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学）の特徴をもつ事例であり、其々の対象者に対し状況に応じた必要な援助を判断し実施することで、看護に必要な実践力を学ぶ。その学修過程を通して自己の課題を明確にし、臨地実習への動機づけとする。

### 【授業の展開計画】

詳細は「看護統合演習 I 要項」に提示し、学習のポイントはオリエンテーションで説明をする

期間：4月第2週から第3週に集中で実施する

6領域での演習 3.5日（14コマ） まとめ 0.5日（2コマ） 演習チェック 1日

方法：①6領域の中から提示された各々の事例および課題を理解し、具体的な看護計画を立案し演習に臨む  
②教員の指導を受けながら、6領域で課題のケアを実践する  
③6領域の中の1領域でチェックを受ける

### 【履修上の注意事項】

1. すべての領域実習の先修科目である。必ず履修し単位取得すること。
2. 演習要項をよく読み、全領域の課題を達成するため十分に事前学習し具体的な計画を立案して演習に臨むこと。
3. 模擬対象者への看護実践は、臨地実習における実践と同じと考え、真剣に取り組むこと。
4. 実習と同様にユニフォームを着用し身だしなみを整えて臨むこと。

### 【評価方法】

6領域の中の1領域で、各々の領域の評価表に基づいてチェックを受けその成績で評価する（100%）。身だしなみが整っていない場合はチェックを受けることはできない（不合格とする）

### 【テキスト】

1・2年次に使用したテキスト

### 【参考文献】

1・2年次に使用したもの

## 看護統合演習Ⅱ

担当教員 中川 武子、安藤 学、古賀 由紀子、井手 裕子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

災害サイクルの特徴を理解し、各サイクルにおける健康課題や看護ニーズ、看護職者の役割について考察するとともに、災害看護に必要な基礎的能力を習得できる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義：世界各地で発生する災害の特徴と課題①（安藤）
2	講義：世界各地で発生する災害の特徴と課題②（安藤）
3	講義：災害サイクル、災害各期の特徴（中川）
4	演習：災害時要援護者の特性（中川）
5	講義：災害急性期の看護活動（特別講師）
6	講義：災害急性期の看護活動の実際（特別講師）
7	講義：災害時のこころのケア（特別講師）
8	講義：災害時のこころのケア（特別講師）
9	講義：災害亜急性期・慢性期の看護（中川）
10	演習：災害亜急性期・慢性期の看護活動の実際（特別講師）
11	演習：傷病者に対する応急処置、搬送（中川・古賀・井手）
12	演習：傷病者に対する応急処置、搬送（中川・古賀・井手）
13	演習：傷病者に対する応急処置、搬送（中川・古賀・井手）
14	講義：国際看護の現状と実際（特別講師）
15	講義：国際看護の現状と実際（特別講師）

## 【履修上の注意事項】

最近、国内外で起こった災害について調べておくこと。また、授業後はテキストを用いて復習しておくこと。

## 【評価方法】

授業中に提出するミニ・レポート20%、演習50%、試験30%

## 【テキスト】

系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③. 医学書院,

## 【参考文献】

適宜、紹介する

## 看護統合実習

**担当教員** 福島、生野、未定、未定、山本、開田、二宮、川本、松岡、緒方浩、落合、柿山、喜多、島村、戸田

**配当年次** 3～4年

**開講時期** (3年)2学期、(4年)1学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 実習

**単位数** 2

**準備事項**

**備考** 本科目は、3年次第2学期から4年次第1学期までの開講科目

### 【授業のねらい】

本科目は、基礎看護学実習、各専門領域の実習を履修し習得した看護実践能力を、さらに高めるための最終段階の臨床実習である。組織の概要、看護職と他職種との役割の連携の実際を理解し、チームの一員として、複数の対象者の看護を実践する。この実習における体験を考察し、自分の看護観を構築し自己の課題を明確にする。

### 【授業の展開計画】

詳細は、看護統合実習要項に提示する

実習期間：1学期平成29年6月26日～7月14日の内、10日間で領域によって異なる

実習施設：小児看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 在宅看護学の領域の実習施設

### 【履修上の注意事項】

1. 臨地実習の集大成であり、学生の主体的かつ創造的な実習を期待する。
2. 体調管理には十分気をつける。

### 【評価方法】

評価基準は、実習要項に記載されている各領域の実習評価表に基づく。  
指導教員、実習指導者の評価をもとに、総合的に評価する。

### 【テキスト】

実習領域で提示されたもの

### 【参考文献】

既に学習したすべての文献・資料 担当教員・臨床指導者から提示されたもの

## 研究方法論

担当教員 樋口、山本、柴田、志賀、掃本、宮里、未定、二宮、森、福本（講義担当順）

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

大学は、学問の府であり、研究と教育の場である。研究的視点を持った人が研究者であり、専門家である。看護学科は看護の専門家を育てる場であり、卒業研究・論文作成は、研究的思考を育む強力な手段となる。まず研究者としての基本理念を学び、自由な視点で看護研究のテーマを考え、次に研究を推し進めるのに必要な種々の方法・手順の実際を学ぶ。この研究方法論を参考に、各自、研究の門に入り、卒業研究を行い、最終的に、卒業研究論文を完成させる。

### 【授業の展開計画】

#### 【研究方法論：授業内容】

【担当教員】 【日程】 【裏授業】  
平成29年 水1時限 9:10-10:40  
水2時限 10:50-12:20

卒業研究

1. 研究とは -----	樋口	AB	(4-12)	水1	
2. 研究論文作成の方法 -----	樋口	AB	(4-12)	水2	
3. 実験研究 -----	志賀	AB	(4-19)	水1	
4. 研究倫理の基本理念 -----	柴田	AB	(4-19)	水2	
5. 文献検索の方法 -----	福本(直)	A5	(4-26)	水1	卒研B1
5.		B5	(4-26)	水2	卒研A1
6. 臨床研究 -----	掃本	AB	(5-02)	水1	
7. 看護質的研究から量的研究へ -----	宮里	AB	(5-02)	水2	
8. 事例研究と倫理的問題 -----	牛ノ濱	AB	(5-10)	水1	
9. Microsoft Excel を使う：表計算とグラフの作成 -----	二宮	AB	(5-10)	水2	
10. Microsoft Word を使う：研究計画書と【倫理審査申請書】の作成法-	山本	AB	(5-24)	水1	
11. 疫学の実際 -----	福本(久)	AB	(5-24)	水2	
12. 統計処理の実際 -----	森(信)	A12	(5-31)	水1	卒研B2
12.	森(信)	B12	(5-31)	水2	卒研A2
13. 統計処理の実際 -----	森(信)	A13	(6-07)	水1	卒研B3
13.	森(信)	B13	(6-07)	水2	卒研A3
14. Power Point を使う：研究発表（プレゼンテーション）の仕方 -----	森(信)	AB	(6-14)	水1	
15. 【緒言】と【研究方法】の作成・提出 -----	樋口	AB	(6-14)	水2	

### 【履修上の注意事項】

- 履修内容を把握し、思考過程を論理的に展開できるように心がける。
- ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に不明な点は調べ、内容を整理・復習する。
- 準備：5. 12. 13. の項目は、2グループに分け、1時限と2時限に各々第一コンピュータ室(60台)にて行う。各裏グループは、卒業研究 1, 2, 3, を各ゼミで行う。残りのゼミは6/21～7/26。9. 10. 11. 14. 15. の項目は 314演習室で行う。各自パソコンを持ってくること。

### 【評価方法】

- 前提条件は、2/3以上の出席で、【緒言】40 + 【方法】30 + 【倫理委員会申請書】30 = 100点で評価する。
- 10. では倫理委員会より-【倫理審査申請書(院生用)】を印刷し持参する-各自作成-6月7日(水)に担当教員へ。
- 15. 【緒言】【方法】【文献】は各々A4 1-2枚に各自作成・印刷し、6月14日(水)2時限内に担当教員へ提出。
- 提出された【倫理審査申請書】【緒言】【方法】は、即時、卒業研究論文の各指導教員へ渡され、各指導教員は、上記の配点で評価し科目責任者へ報告する。科目責任者は、取りまとめ全員の成績を教務課へ報告する。

### 【テキスト】

- 授業中に配布される教員の作成したプリント・資料など。

### 【参考文献】

- 学術雑誌や看護関連学会雑誌に掲載の邦文や英文の論文を参考にする（原著論文が望ましい）。ゼミによっては、本学既発行の卒業研究論文集などを参考にしてもよい。

## 卒業研究

担当教員 柴田 恵子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

看護研究について理解し、実際に看護研究に取り組むための計画を立案する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護研究とは
2	研究計画書について
3	研究における文献検索
4	文献を講読する
5	研究の目的
6	研究の方法：目的に沿った方法を考える
7	グループワーク：研究の方法について意見交換
8	研究デザイン
9	研究計画書の作成
10	グループワーク：計画書についての意見交換
11	研究の実施
12	研究計画書の見直し
13	研究発表
14	研究の評価
15	発表：看護研究についての学び

## 【履修上の注意事項】

締め切りを厳守し、目的を達成するために主体的に学習をすること  
 実習等で欠席する場合は、その時間の授業内容に関するレポートを作成し提出すること  
 予習、復習については、オリエンテーション時に指示するので、内容を確認すること

## 【評価方法】

学習状況、態度：40%、最終試験（口頭試問、レポート作成）：60%

## 【テキスト】

必要時、紹介する

## 【参考文献】

各自の研究目的、方法に合わせて紹介する

## 卒業研究

担当教員 福島 和代

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

原則として卒業論文作成を前提とする。研究方法論の講義を基に展開する。自分の疑問や気付きから、「知りたい」「明らかにしたい」へと自分の関心のあることを探求していく楽しさを知る。研究の一連の過程を経験し、看護専門職業人としての研究的視点を養うことができる。

## 【授業の展開計画】

毎回、グループメンバーで討議し、最終的に研究計画書を作成する。研究方法や論文構成等の基本的な内容については、研究論文要約の発表時に教員が具体的に解説したり、学生が調べて他のメンバーに説明する。

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	自分の疑問や気づきの発表（A4紙1枚：全員）、テーマ学習項目の分担
3	テーマ学習の発表（A4紙2枚：全員）と討議、文献検索と文献要約オリエンテーション
4	先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
5	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
6	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
7	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
8	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
9	上記以外の先行研究論文1篇の要約とテーマとの関係性について発表（A4紙2枚：全員）と討議
10	研究疑問の整理、研究テーマ決定の発表（A4紙1枚：全員）と討議
11	今後の方向性（結果の予測と論点）の発表（A4紙1枚：全員）と討議
12	研究の動機、目的の発表（A4紙1枚：全員）と討議
13	緒言（背景、目的、方法、文献一覧）の発表（A4紙2枚）と討議
14	調査内容（アンケートやインタビューの質問内容）の発表と討議、緒言修正
15	まとめ、研究計画書と調査用紙の完成

## 【履修上の注意事項】

事前に文献検索やテーマに関する学習を行い、指示されたレポートやレジюмеを作成し、人数（メンバー＋教員）分を準備し配布する。授業後は意見をもらった内容をもとに計画の修正を行う。コピー＆ペーストでなく、自分の言葉で書くこと。

他のメンバーの研究計画書を一緒に作り上げるという気持ちで積極的に取り組んでほしい。授業の進行状況によっては授業の展開計画を変更する可能性がある。その時は学生に提示する。

## 【評価方法】

指示されたレポートやレジюме70%、受講態度30%の割合で総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考文献】

随時紹介する

## 卒業研究

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

大学は、学問の府であり、研究と教育の場である。研究的視点を持った実践者が、看護の専門家である。卒業研究・論文作成は、研究的思考を育む強力な手段となる。研究方法論で、研究者としての基本理念を学びつつ、自由な視点で各自の看護研究のテーマを模索する。「卒業研究」では、各自、興味を持ったテーマに関する先行研究論文を詳読し、現在の状況を把握し、研究目的を明確にする。同時に質の高い論文の見分け方と研究推進に必要な方法・手順の実際を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

- 【授業内容】
1. 毎週1名、各自の研究テーマに関連する文献（原著論文、総説）を詳読し、参加者へ解説・説明することにより、各自の研究目的を明確化していく。
  2. 10編以上の論文を読み、重要と思う論文を3つ選択し、少なくとも抄読会3回は担当する。
  2. 担当でない日は、詳読会に参加・質問し、他の研究分野への見聞を広める。
  3. 詳読会の中で、参考にすべき研究論文と手本にすべきでない研究論文を体験する。
  4. 研究論文の実際の書き方や研究方法を学ぶ。
  5. データの表示/図示方法（表計算とグラフの作成方法）や統計処理の実際を学ぶ。

【日程】 平成29年4月～7月（水1）1時限（9:10-12:20）、（水2）2時限（10:50-12:20）

- ① 4月26日水2 オリエンテーション（研究テーマ、文献検索など）
- ② 5月31日水2 詳読会1
- ③ 6月07日水2 詳読会2
- ④ 6月21日水1 詳読会3
- ⑤ 6月21日水2 詳読会4
- ⑥ 6月28日水1 詳読会5
- ⑦ 6月28日水2 詳読会6
- ⑧ 7月05日水1 詳読会7
- ⑨ 7月05日水2 詳読会8
- ⑩ 7月12日水1 詳読会9
- ⑪ 7月12日水2 詳読会10
- ⑫ 7月19日水1 詳読会11
- ⑬ 7月19日水2 詳読会12
- ⑭ 7月26日水1 詳読会13
- ⑮ 7月26日水2 詳読会14

## 【履修上の注意事項】

1. 詳読会に参加する。
2. 興味を持つキーワードから文献検索し、原著論文を選別する。
3. 各自、研究ノートを作成する。

## 【評価方法】

詳読会への参加状況と各自の研究テーマへの取り組み方

## 【テキスト】

各自の持ち寄った文献

## 【参考文献】

本学既発行の卒業研究論文集（第1巻～第16巻）、看護関連学会雑誌、学術雑誌、学術書など

## 卒業研究

担当教員 緒方 妙子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

### 【授業のねらい】

看護学的視点での研究疑問から、自己の研究テーマを明らかにし、研究計画書作成までの過程を理解することができる。

### 【授業の展開計画】

導入として、過去の卒業論文テーマの紹介、興味深い論文をいくつか選択して精読し、批判を試みる。  
(1～4週)

1. 看護学的視点を踏まえ、自己の興味・関心のあるテーマ、あるいは疑問点から出発し、研究疑問を明らかにする。(5～7週)
2. 自己の研究疑問の文献を検索し、集めた文献をクリティークし、研究テーマを導く。  
(8～10週)
3. 自己の研究テーマに即して研究方法を追求し、看護研究における倫理的な配慮を踏まえた研究計画書を作成する。(11～15週)

### 【履修上の注意事項】

- 1) 研究はコンスタントに努力することが大事です。1週間単位でどれだけ進めることができたのか、その研究進捗を報告してください。
- 2) 卒業研究論文を選択する学生は、この卒業研究から発展させること。

### 【評価方法】

取り組みの姿勢が主体的であるか20%、文献検索を含む学習量20%、研究計画書の文章力（論理性、表現力）60%の割合で、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の都度、研究テーマと関連する文献を紹介する。

### 【参考文献】

研究テーマに応じて紹介する。

## 卒業研究

担当教員 開田 ひとみ

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究アプローチを学び、看護研究に生かすことができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護の動向と看護研究の意義
2	看護研究の進め方、方法論
3	研究における文献の意義
4	文献検索
5	文献研究(研究論文のクリティーク)
6	文献研究研究(論文のクリティーク)
7	文献研究(研究論文のクリティーク)
8	文献研究(研究論文のクリティーク)
9	看護研究における倫理的配慮
10	研究テーマの設定と問題の背景
11	研究計画書の立案について
12	量的研究に関するデータ処理について
13	質的研究に関するデータ処理について
14	分析・考察について
15	研究論文の書き方

## 【履修上の注意事項】

公的な理由以外は全日程出席し、主体的に取り組むこと。進度に沿って学習テーマを明確にしますので予習、復習を行い臨むこと。

## 【評価方法】

文献検索30%、研究計画書40%、態度30%で評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 卒業研究

担当教員 福本 久美子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

### 【授業のねらい】

- ・創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけ、看護師として生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を経験する。
- ・卒業研究論文を作成することで、看護師としての研究的な視点を養うことができる。

### 【授業の展開計画】

- (1) 研究課題(キーワード)
  - ①健康的なライフスタイル②健康な地域づくり③高齢者の健康的な生活(QOL)④労働者の健康とライフスタイル⑤地域看護
- (2) 授業の展開
  - 1 コマ：オリエンテーション
  - 2～5：文献検索
  - 6～7：研究方法の学習
  - 8～11：研究テーマの決定
  - 11～14：研究計画の作成
  - 15：報告会
- (3) 指導方法
  - ①個別指導とグループ指導を組み合わせる指導
  - ②全体の進行管理のため、合宿などを取り入れ集中的に指導

### 【履修上の注意事項】

- 1) 卒業研究論文を選択する学生は、この卒業研究から発展させること。
- 2) 研究計画を策定する場合、事前に先行文献を充分読み取ること。
- 3) 研究指導後、事後学習を行い学びを深めること。

### 【評価方法】

- (1) 卒業研究論文を選択しない者は、卒業研究報告書を作成すること。その報告書の内容60%と受講態度40%の割合で総合的に評価する。
- (2) 卒業研究論文を選択する者は、指示されたレポートやレジメ60%、受講態度40%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定なし。必要時資料配布。

### 【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック（メディカ出版）。必要時適宜紹介する。

## 卒業研究

担当教員 山本 恵子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究疑問を持ち、その解決のために多くの文献を読み研究疑問を明確化できる。  
研究手順とルールの概要を学ぶことができる。

## 【授業の展開計画】

基本的には、卒業研究論文とリンクして実施していく。

週	授 業 の 内 容
1	「気になること」を話し合う:研究疑問を各自発表
2	「なぜ気になるのか?」を話し合う:テーマの方向性を検討
3	研究方法の種類とは?:事例研究、調査研究など研究方法を提示
4	研究疑問を解決するには?:第3回の講義をもとに研究方法の検討
5	研究計画書作成:研究計画書作成上の注意
6	研究計画書作成:ゼミの中で研究計画書を検討
7	研究計画書作成:ゼミの中で研究計画書を検討
8	文献レビュー:研究疑問について先行研究をまとめ発表
9	文献レビュー:研究疑問について先行研究をまとめ発表
10	研究計画書の見直し:文献検討を踏まえた修正の必要性を検討
11	研究の実施:調査依頼方法、調査の際の注意など
12	研究の実施:実施状況の報告と修正
13	研究の実施:実施状況の報告と修正
14	研究成果の発表・意見交換
15	研究成果の発表・意見交換

## 【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。履修の都合上(養護教諭などの実習)、授業の展開計画に添えない場合は、各自計画を立てて持参すること。それをもとに相談・協議の上、研究をすすめる。
- ・事前学習:授業展開を参考に自身の研究について検討し、文書を作成し参加すること。
- ・事後学習:意見交換を踏まえて、自身の研究を追加修正すること。

## 【評価方法】

研究手順に関することで70点、研究態度で30点の合計100点とする。詳細項目は評価表をもとに説明する。

## 【テキスト】

学生の進度に合わせて、適宜紹介する。

## 【参考文献】

学生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

## 卒業研究

担当教員 川本 起久子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

## 【授業のねらい】

関心のあるテーマから疑問を明確にし、研究の基礎を学ぶことができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、テーマの確認
2	キーワード分析
3	テーマの決定・文献抄読①
4	文献抄読②
5	文献抄読③、研究方法の検討
6	研究計画書の作成
7	研究計画書の修正
8	文献抄読④、調査票について
9	文献抄読⑤、研究方法の検討
10	研究方法の決定、調査票の作成
11	調査票の修正、分析方法検討
12	調査票の完成、依頼先確認、文献抄読⑥
13	調査等の最終確認
14	結果・分析・考察について
15	研究成果発表

## 【履修上の注意事項】

自主的に取り組むこと。事前学習として、自己のテーマに関するレポートを作成して参加する。事後学習として、発表時の意見をもとに自己の研究を検討する。

## 【評価方法】

レポートおよびプレゼンテーション（70%）、研究態度（30%）で評価する。

## 【テキスト】

適宜紹介する

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 卒業研究

担当教員 上妻 尚子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ① 自らの興味・関心・疑問に基づいて研究テーマを決定し、テーマに基づいた文献検索を行なうことができる。
- ② 検索した論文のレジメを作成し、論文をクリティークすることができる。
- ③ 検索した文献を基に自身の研究方法を明確にし、研究計画書を作成することができる。
- ④ ①から③を通して論理的な思考を構築することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 研究テーマとして考えていることを発表
2	文献検索 論文クリティークとは
3	論文詳読① 研究テーマの検討
4	論文詳読② 研究目的の検討
5	文献検索結果の報告・意見交換
6	論文詳読③ 研究テーマおよび研究目的の明確化
7	論文詳読④ 研究方法の検討
8	研究計画書作成
9	研究計画の発表・意見交換
10	論文詳読⑤ 研究方法の再考
11	論文詳読⑥ 研究方法の明確化
12	論文詳読⑦ データ収集
13	論文詳読⑧ データ分析
14	研究実施状況の報告
15	研究実施状況に対する意見交換

## 【履修上の注意事項】

論文詳読は、学生が分担して担当する。担当学生は、自身の研究テーマに基づいた論文を選択し、当該論文の要約を作成する（A41枚）。論文詳読は、授業前に全員が当該論文をクリティークしておくこと（事前学習）。授業後には、他者の意見も含めて当該論文からの学びと自身の研究に反映させる点を整理しておくこと（事後学習）。5回・9回・14回・15回のプレゼンテーションでは各自資料を準備する（A41-2枚）。

## 【評価方法】

論文詳読およびプレゼンテーション時の資料（30%）、プレゼンテーション（20%）、研究手順および内容（30%）、受講態度（詳読会や意見交換時の意見発表等）（20%）より評価する。詳細は、オリエンテーション時に説明する。

## 【テキスト】

適宜紹介する。

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 卒業研究

担当教員 二宮 球美

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究とは何か。を知り説明できる。

看護研究の役割、看護研究の原理と方法を学び、論文作成までのプロセスを学び理解できる。

## 【授業の展開計画】

講義、演習、課題によって授業を展開します。

週	授 業 の 内 容	
1	看護研究とは① 講義	看護研究の役割、科学的アプローチが理解できる
2	論文の抄読① 講義、演習	教員提示の論文で行う(1篇) 研究テーマの仮設定ができる
3	看護研究とは② 講義	研究プロセスの概観、文献検索について
4	論文の抄読② 演習	各学生の提示された論文で行う(2編) 批判的に文献を読む体験ができる
5	論文の抄読③ 演習	各学生の提示された論文で行う(2編) 批判的に文献を読む体験ができる
6	論文の抄読④ 演習	各学生の提示された論文で行う(2編) 研究テーマの仮決定ができる
7	研究計画書の作成① 演習	各学生が研究のプロセスを理解し、研究仮計画書を書くことができる
8	研究計画書の作成② 演習	各学生が研究のプロセスを理解し、研究計画書を書くことができる
9	論文のディベート① 講義、演習	各個人研究テーマに沿った論文(1篇)を用いて
10	論文のディベート② 講義、演習	各個人研究テーマに沿った論文(1篇)を用いて
11	論文のディベート③ 講義、演習	各個人研究テーマに沿った論文(1篇)、研究計画書の提出
12	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる	
13	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる	
14	測定とデータ収集及び研究計画の修正ができる	
15	看護研究とは③ 講義	分析方法について理解できる

## 【履修上の注意事項】

シラバスに提示された講義演習計画に沿って、テキストの予習および自己課題の準備を行ってこよう。

自主性・積極性に基づく履修を望みます。事後学習として、文献検討などで各学生の自己課題明らかにし、継続的な研究の芽が芽生える努力をしてください。

## 【評価方法】

シラバスの設定提出物での評価 50%

研究の内容評価 50%

## 【テキスト】

看護研究 原理と方法 D.F. ポーリット、B.P. ハングラー、監修近藤潤子、医学書院、2003. 12.

## 【参考文献】

ナースのための質的研究入門 ホロウェイ+ウィラー 監訳野口美和子、医学書院、2004. 5

これからの看護研究—基礎と応用—第2版、編集小笠原知枝、松木光子、Nouvelle HIROKAWA, 2008. 6

## 卒業研究

担当教員 松本 鈴子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 卒業研究

担当教員 牛之濱 久代

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究手順およびルールの概要を理解することができる。  
自分の興味・関心・疑問に思うことについて、文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確にすることができる。

## 【授業の展開計画】

卒業研究論文とリンクして実施する。

週	授 業 の 内 容
1	自分の興味・関心のある事柄、疑問に思うことについて各自発表する
2	テーマの方向性の検討
3	研究方法の種類について
4	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
5	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
6	研究課題を解決するための文献検索・検討；各自のテーマに沿って文献検索し検討結果を発表する
7	研究実施計画を立てる
8	研究計画書の書き方について
9	研究計画立案と見直し
10	研究計画立案と見直し
11	研究実施：調査依頼方法及び実施時の留意点など
12	研究実施：実施状況報告と修正
13	研究実施：実施状況報告と修正
14	研究成果のまとめと発表
15	研究成果のまとめと発表

## 【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。
- ・履修の都合上、授業計画通りに展開できない場合は、各自の状況に応じて研究を進めていく。
- ・研究方法論をはじめ、既習学習内容を参考に自信の研究について検討し、計画書、論文等を作成すること。
- ・ゼミ生間の意見交換を通して、自他の研究に対する検討を行い、自身の研究に生かせるようにすること。

## 【評価方法】

研究への取り組み姿勢：40点、実施状況：60点とする。

## 【テキスト】

ゼミの内容及び学生の進度に合わせ、適宜紹介する。

## 【参考文献】

学生のテーマやゼミの内容に応じて適宜紹介する。

## 卒業研究

担当教員 中川 武子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

## 【授業のねらい】

興味関心があるテーマを取り上げ、関連文献を学生間で精読し、研究方法論で学んだ知識を活かし、研究計画書を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文献抄読・意見交換
3	文献抄読・意見交換
4	文献抄読・意見交換
5	テーマ決定
6	文献抄読・意見交換
7	研究計画書作成
8	研究計画書作成
9	研究計画書作成
10	研究計画書修正
11	研究計画書提出
12	緒言作成
13	緒言作成・修正
14	緒言提出
15	まとめ

## 【履修上の注意事項】

- 1) 学生間で積極的に意見交換を行う。
- 2) テーマに沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成する。
- 3) 授業前に課題に取り組み、授業後に復習をしておくこと

## 【評価方法】

文献検索20% 研究計画書30% 緒言30% 態度20%

## 【テキスト】

小笠原喜康著 新版大学生のためのレポート・論文術 講談社現代新書

## 【参考文献】

石井京子著 ナースのための質問し調査とデータ分析 医学書院

## 卒業研究

担当教員 宮里 邦子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

### 【授業のねらい】

ねらい：研究テーマを選定し、既習の知識や技術を統合して、一連の研究過程を体験を通して、研究活動の基本を習得する。

### 【授業の展開計画】

1. 看護研究とは
2. 看護倫理
3. 文献とは
4. 文献検索と整理・分類
5. 文献検討
6. 文献検討
7. 文献検討
8. 文献検討
9. 研究テーマの絞り込みと発表
10. クリティークの視点と方法
11. クリティークの実際
12. クリティークの実際
13. クリティークの実際
14. クリティークの発表
15. クリティークの発表

### 【履修上の注意事項】

1. Webによる文献検索, 文献収集の方法を習得しておく。
2. 各自の研究テーマに関連する文献を取集して、授業には必ず読んで受講する。
3. 授業後は指導を受けてたり指摘されたことを速やかに文献などで学習して修正すること。

### 【評価方法】

文献の読み込みとテーマの発表 (50%) クリティークの発表 (50%)

### 【テキスト】

配布資料

### 【参考文献】

- ・ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版 ・ これからの看護研究 ー基礎と応用ー NOUVELLE HIROKAWA

## 卒業研究

担当教員 生野 繁子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

## 【授業のねらい】

創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけである。看護者としての生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を実践し理解できる。

## 【授業の展開計画】

1. グループディスカッションとレポート発表を中心のゼミ運営に積極的に参加することができる。
  2. 研究の一連の過程を理解し、そのうえで卒業研究論文に対して取り組む姿勢を持つことができる。
  3. 先行研究の読解力を身につけ、エビデンスを活用することができる。
- 注) 卒業研究論文のシラバスも参照のこと。

週	授 業 の 内 容
1	顔合わせ・導入・日程確認
2	テーマに近い論文・過去の卒業論文の紹介
3	自分の問題意識について
4	キーワードの説明
5	文献検索の実施
6	文献サマリーの作成
7	研究計画の作成
8	研究方法の吟味・検討
9	研究対象の確定
10	研究方法の確定
11	実施
12	結果のまとめ
13	結果の分析
14	考察
15	ゼミ報告会で進捗状況の発表

## 【履修上の注意事項】

- ・卒業研究論文を選択する学生は、この卒業研究から発展させること。
- ・自主的に研究に取り組む姿勢が重要であり、積極的に参加すること。
- ・ゼミでの司会進行・その他の役割を共同して果たすこと。
- ・提示された資料を読んで参加すること。

## 【評価方法】

卒業研究論文を選択しない者は、卒業研究報告書を作成すること。その報告書内容50%と、発言内容50%の割合で総合的に評価する。卒業研究論文を選択する者は、指示されたレポートやレジュメ50%、発言内容50%の割合で総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要時適宜紹介する。

## 【参考文献】

必要時適宜紹介する。

## 卒業研究

担当教員 松岡 聖美

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

## 【授業のねらい】

これまでの学習、生活体験等から関心を持った事象に関する文献を抄読することで研究目的を明確化し、研究計画の立案ができる。

## 【授業の展開計画】

文献抄読は、自分の研究テーマに関連した文献を詳読し文献サマリーを準備する。各々が文献を詳読することに加え、他者の選出した文献を読むことで視野を広げつつ研究目的を明確にしていく。また、様々な文献を目にすることで、多種多様な研究方法を学ぶことも目的の一部分である。

週	授 業 の 内 容
1	看護研究とは
2	文献とは（文献検索の方法）
3	文献抄読（文献サマリーの書き方を学ぶ、ディスカッション）
4	文献抄読（関心のあるものを1編持ち寄り、ディスカッション）
5	研究テーマ（仮）の発表
6	文献抄読（他学生の文献から、自己の研究への示唆を得る）
7	研究計画書の作成
8	研究計画書の検討、修正
9	文献抄読（小児保健、小児看護、ジェンダーに関してディスカッション）
10	研究方法の再検討
11	研究テーマの決定
12	研究計画書の修正
13	文献抄読（クリティークとは、ディスカッション）
14	文献抄読（クリティークの経験）
15	学会活動について

## 【履修上の注意事項】

1. 文献抄読のために、文献の詳読し、わからない用語等は下調べをし、他者からの質問に答える準備をしておくこと。文献サマリー作成、文献の複写等準備を行うこと。
2. ゼミに参加するだけでなく、自分の考えを述べること。
3. 指示された準備物は、最低限用意すること。
4. ゼミで学んだことは、次回の準備時、ゼミ時に実践すること。

## 【評価方法】

研究への取り組み（20%）、ゼミでのディスカッション（40%）、および発表資料（40%）

## 【テキスト】

早川 和生編. 看護研究の進め方 論文の書き方(第2版). 医学書院

## 【参考文献】

黒田裕子の看護研究 Step by Step (医学書院)      文献レビューのきほん (医歯薬出版)      看護研究ガイドマップ (医学書院)

## 卒業研究

担当教員 掃本 誠治

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

### 【授業のねらい】

看護研究は、臨床の現場で遭遇した疑問や問題点が研究課題になります。研究対象を決めて観察し、過去の報告を調査し（論文読解）、結果や、結論を多面的な角度から導き出すことが重要です。大学時のみ研究するのではなく、病院勤務後も、臨床での疑問を意識した看護は、起こりうることを予測した適切な観察とアセスメントになり、専門的看護と患者さんへのベネフィットにつながります。本授業では研究の方法、論文作成のプロセスを修得します。

### 【授業の展開計画】

#### ①抄読会

研究課題に関連した論文を抄読する（担当ごとに）。

英語論文が望ましく、アブストラクト（抄録）は日本語にして配布できるように準備しておく。

#### ②研究報告会

研究の進捗状況を報告し、お互いに検討、議論することで、問題点を明らかにしていく（担当ごとに）。

授業内容

1. 看護研究とは
2. 研究テーマの決定
3. 研究デザインの決定
4. 研究計画書の作成
5. 倫理面への配慮
6. データの収集
7. データの結果・解析
8. データの考察
9. 抄読会・報告会
10. 抄読会・報告会
11. 抄読会・報告会
12. 抄読会・報告会
13. 抄読会・報告会
14. 抄読会・報告会
15. 抄読会・報告会

### 【履修上の注意事項】

看護研究の基本的なことを学ぼうとする自主性、積極性が重要です。

### 【評価方法】

研究への真摯な態度と抄読会、報告会の内容で評価します。

### 【テキスト】

適宜紹介します。

### 【参考文献】

適宜紹介します。

## 卒業研究論文

担当教員 中川 武子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究方法論・卒業研究で学んだ知識を活かし、文献検索から研究論文作成まで、研究論文作成の規定に則った論文を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	16	データ収集・調査
2	文献抄読・意見交換	17	データ収集・調査
3	研究方法学習	18	データ入力・分析
4	研究方法学習	19	データ入力・分析
5	テーマ決定	20	データ入力・分析
6	文献抄読・意見交換	21	データ入力・分析
7	文献抄読・意見交換	22	論文作成
8	研究計画書作成	23	論文作成
9	研究計画書作成	24	論文作成
10	研究計画書修正	25	論文作成・修正
11	研究計画書発表	26	論文作成・修正
12	研究実施に向けた準備	27	論文作成・修正
13	研究実施に向けた準備	28	報告会
14	研究実施に向けた準備	29	論文提出
15	まとめ	30	まとめ

## 【履修上の注意事項】

- 1) 学生間で協力して行い、主体的・計画的に研究に取り組み、研究論文を作成する。
- 3) 授業前にゼミの課題に取り組み、終了後は復習をしておくこと

## 【評価方法】

研究論文60% 研究への取り組み姿勢40%

## 【テキスト】

卒業研究に準ずる

## 【参考文献】

必要時、紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 宮里 邦子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

### 【授業のねらい】

文献検索から研究計画立案、実施、分析、考察、そして論文作成という一連の研究手順をたどって経験し、基本的な研究方法を習得する。

### 【授業の展開計画】

1. 論点や問題の絞り込み、および問題背景の明確化のための文献収集と読み込み
  - 1) Web（データベース）による文献検索、および文献収集
  - 2) 文献の整理・分類
  - 3) 先行研究や既存知見の到達度の確認、およびテーマ、目的に基づく文献検討
2. 研究計画の立案・実施・分析
  - 1) 研究計画の具体的な立案
  - 2) 研究方法の選択
  - 3) 研究方法に基づく実施
  - 4) 数量データの統計学的分析・結果の解釈、または質的データの分析・結果の解釈
  - 5) テーマ、目的に基づく考察
3. 論文作成
  - 1) 論文構成
  - 2) 論文記述

### 【履修上の注意事項】

1. 研究テーマに関連する文献を検索し、読み込み、講義に臨む。
  2. 講義後は、指導や指摘を受けるところを速やかに復習して、修正する。
- ◎「研究方法論」を理解し、習得する。

### 【評価方法】

研究手順（文献検索、文献検討、研究計画、実施、分析方法）の習得度＝50％ 研究内容（テーマ、目的、結果、考察、結論）のレベル＝50％

### 【テキスト】

適宜、資料を配布する。

### 【参考文献】

適宜、提示する

## 卒業研究論文

担当教員 生野 繁子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

1. 大学での学習の集大成として研究方法論・卒業研究の学びを基に、規定に添った論文の作成ができる。
2. 看護学全般のテーマの中から、特に老年看護学・介護する家族の支援・ジェンダーの影響・男性看護師の展望などについて深めることができる。
3. ゼミ論文集としてとりまとめ、研究でお世話になった方々に配布することができる。

## 【授業の展開計画】

- 1学期 ディスカッションとレポート発表を中心にゼミを運営する。学期末にゼミ中間報告会を実施する。  
2学期 各自の進度により、ゼミでの発表内容が変わることもある。11月～12月にゼミの最終発表会を実施し、抄録作成後、ゼミ卒業研究論文集として冊子を作成する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	顔合わせ 導入	16	中間報告会の学びと今後の方向性の確認
2	テーマに近い論文の紹介	17	結果のまとめ・文献サマリー⑧
3	文献サマリー①	18	考察の方向性・文献サマリー⑨
4	文献サマリー②	19	考察の文章化・文献サマリー⑩
5	テーマやキーワードの説明①	20	論文全体の文章化
6	研究計画書①	21	卒業研究論文 草稿完成
7	文献サマリー③	22	卒業研究論文修正
8	研究計画書②	23	卒業研究論文修正
9	文献サマリー④⑤	24	卒業研究論文修正
10	研究計画書完成	25	発表準備
11	研究方法の具体化・調査表案等の提示	26	ゼミでの卒業研究発表会
12	文献サマリー⑥⑦	27	発表後の修正・抄録作成の説明
13	研究方法の具体化	28	抄録の作成
14	実施のための手続きの確認	29	抄録の完成
15	中間報告会を運営し発表する	30	ゼミ論文集の作成・完成

## 【履修上の注意事項】

- ・卒業研究から発展させ論文を作成する者は、看護学科卒業研究論文委員会の規定に添って論文を作成し、決められた手続きを経て、期日内に教務課に提出すること。
- ・ゼミで指示されたサマリーやレポートの提出期限、提出方法を守ること。
- ・期限内に全員が終了できるように個人の責任を果たすこと。

## 【評価方法】

完成した卒業研究論文50%、提出レポート30%、1・2学期を通したゼミでの発言内容20%の割合で総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要時適宜紹介する。

## 【参考文献】

必要時適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 松岡 聖美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

研究計画から論文作成、研究成果の発表までのプロセスを体験し、基本的な研究手法を習得できる。

## 【授業の展開計画】

研究方法論、卒業研究と連動し以下のように展開していく。  
看護における研究意義、専門職としての自己研鑽についても適宜意見交換を行う。

週	授 業 の 内 容
1	研究テーマ設定
2	研究背景の確認
3	研究対象、方法の検討、倫理的問題
4	分析方法の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表と意見交換
7	データの収集と整理
8	分析の実際
9	研究結果の発表と意見交換
10	論文構成検討
11	論文作成
12	分析の検討
13	考察の検討
14	研究成果の発表
15	論文冊子の作成

## 【履修上の注意事項】

事前に指定された課題に取り組むこと。それを基に、授業内で議論を深める。  
積極的に発言し且つ他の意見に耳を傾けることで、多面的に事象を捉える力を養う。  
授業後は毎回、課題を提示するため、各自学習し次回の授業に備えること。  
\*種々の研究方法については、必ず事前に学習して授業に臨むこと。  
\*授業後半は、研究テーマによって個人指導となるため、教員、学生間での調整が必要である。

## 【評価方法】

課題達成を含めた研究の取り組み (50%)、論文内容 (50%)

## 【テキスト】

早川和生編. 看護研究の進め方 論文の書き方 (第2版). 医学書院

## 【参考文献】

適宜紹介

## 卒業研究論文

担当教員 掃本 誠治

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

看護研究は、臨床の現場で遭遇した疑問や問題点が研究課題になります。研究対象を決めて観察し、過去の報告を調査し（論文読解）、結果や、結論を多面的な角度から導き出すことが重要です。大学時のみ研究するのではなく、病院勤務後も、臨床での疑問を意識した看護は、起こりうることを予測した適切な観察とアセスメントになり、専門的看護と患者さんへのベネフィットにつながります。研究を遂行する上で、文献検索と文献的検討に考察まで行き、論文としてまとめることを修得します。

## 【授業の展開計画】

研究テーマの決定、計画の概要、文献検索・検討、計画書の作成、データの収集、解析、考察まで論文作成を修得する。

1. 看護研究とは
2. 研究テーマの決定
3. 研究計画概要について
4. 文献検索・検討について
5. 研究方法について
6. 研究計画書の作成
7. 対象の決定と倫理面への配慮
8. 観察・調査等の実際の研究の実施
9. データ収集
10. 研究の進捗状況報告
11. データ結果・解析
12. 学生同士の意見交換
13. 図・表の作成
14. 論文作成
15. 成果報告会

## 【履修上の注意事項】

臨床現場での疑問や問題が研究課題となるので、何を明らかにしたいのか、テーマを明確にすることが重要です。また、実現可能性を考慮したうえで、計画書を作成し、自主的に、また他の学生の意見を参考にして研究を行い、わかりやすいプレゼンテーションを行うことが重要です。

## 【評価方法】

研究計画から論文作成まで行うことと、研究に取り組む姿勢も評価します。

## 【テキスト】

適宜紹介します。

## 【参考文献】

適宜紹介します。

## 卒業研究論文

担当教員 牛之濱 久代

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

研究課題、研究目的に合った方法で研究を行い、結果を論文としてまとめることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは:研究の進め方	16	データ集計
2	研究テーマの検討	17	データのまとめ方:データの解釈
3	研究計画書作成について	18	考察について:考察の視点
4	文献検討方法	19	考察について:適切な文献引用
5	研究計画書作成・検討	20	謝辞と報告:研究協力者に対するマナー
6	研究計画書作成・検討	21	論文作成経過報告
7	調査依頼および調査実施方法	22	論文作成経過報告
8	研究計画書進行状況報告	23	ゼミ内での論文検討
9	研究開始	24	学生間の意見交換
10	研究進行状況報告	25	学生間の意見交換
11	研究方法妥当性検討および確認	26	研究限界と今後の課題
12	研究進捗状況報告	27	論文最終修正・完成
13	中間まとめ	28	研究報告準備
14	中間報告:研究経過を発表	29	研究報告会
15	研究進行状況報告	30	文集作成

## 【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。
- ・履修の都合上、シラバス通りに進められない場合は、各自研究計画を立て相談すること。
- ・4月中に年間計画を立案し、それに基づいて進めること。
- ・学生間の意見交換を活発に行い、自身の研究に生かすこと。

## 【評価方法】

研究計画立案・実施・まとめ・論文作成:50点、完成した論文:40点、研究姿勢:10点とし、合計100点で評価する。

## 【テキスト】

必要資料は随時紹介する。

## 【参考文献】

各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 柴田 恵子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

研究論文の作成をとおして、研究の実際と研究実施における必要事項を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは何か：文献から学ぶ	16	データの収集の実際
2	研究倫理について学習する	17	データの整理
3	文献を検索する	18	データの整理を見直す
4	文献を批判的に読む	19	データの分析
5	意見交換：文献の読み方について	20	意見交換：研究状況の報告
6	文献を再度、検索する	21	文章で表現する
7	研究目的を発表する	22	表現した文章を見直す
8	目的に合った方法を考える	23	文章の妥当性を検討する
9	意見交換：研究方法の妥当性について	24	意見交換：作成した論文について
10	計画書を作成する	25	論文を見直す
11	計画書を発表する	26	論文発表の準備をする
12	意見交換：研究計画書について	27	論文発表と評価（前半担当学生）
13	計画書を見直す	28	論文発表と評価（後半担当学生）
14	研究実施に向けた準備	29	論文を修正する
15	まとめ：研究計画書の提出	30	まとめ：研究論文で学んだことと提出

## 【履修上の注意事項】

締め切りを厳守し、主体的に研究に取り組み、研究論文を完成させること  
 実習等で欠席する場合は、その時間の授業内容に関するレポートを作成し提出すること  
 オリエンテーション時に予習、復習について説明をするので、内容については、その都度、確認すること。

## 【評価方法】

学習状況、態度：40%。研究計画書＋研究論文：60%

## 【テキスト】

必要時、紹介する

## 【参考文献】

必要時、紹介する

## 卒業研究論文

担当教員 福島 和代

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

大学4年間の集大成として、研究方法論・卒業研究の学びを基に、規定に添った論文を作成し、卒業研究論文集に集録する。また、論文発表までの一連の過程を経験する。自分が明らかにしたかったテーマにそった論文を作成することで、研究について理解し、研究的視点をもつことができる。

## 【授業の展開計画】

卒業研究と卒業研究論文作成は併行して実施する。1学期はグループワーク中心で行うが、2学期は教員との個人ワークを主に進めていく。卒業論文作成のみではなく、原則としてプレゼンテーションを行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション	16	データの収集と整理
2	自分の疑問や気づきの発表	17	図・表作成
3	テーマ学習の発表と討議	18	データの読み込み
4	先行論文要約とテーマとの関係性発表と討議	19	研究結果の発表と討議（グループワーク）
5	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	20	研究結果修正
6	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	21	考察作成
7	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	22	考察修正、結論作成
8	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	23	結論修正、要旨作成
9	別の論文要約とテーマとの関係性発表と討議	24	要旨修正、研究論文作成
10	研究疑問の整理、テーマ決定の発表と討議	25	研究論文修正
11	今後の方向性の発表と討議	26	研究論文修正
12	研究の動機、目的の発表と討議	27	研究論文修正、プレゼンテーション準備
13	緒言の発表と討議	28	研究論文修正、プレゼンテーション準備
14	調査内容の発表と討議、緒言修正	29	研究論文修正、プレゼンテーション（全員）
15	調査準備と調査依頼	30	まとめ、研究論文提出

## 【履修上の注意事項】

テーマに関する自己学習や多くの論文検索は、授業以外で行い、授業ではメンバーや教員とディスカッションできるように資料等を準備する。展開計画に沿って実施するためには、早めに準備を行う。授業後はもらったアドバイスを参考に修正を行う。教員との個人ワークの時間は、状況に応じて変更する可能性がある。その時は事前に学生に提示する。

## 【評価方法】

研究論文50%、抄録10%、プレゼンテーション10%、受講態度30%の割合で総合的に評価する

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 卒業研究論文

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

大学は、研究と教育の場である。研究的視点を持った人が研究者であり、専門家である。看護学科は看護の専門家を育てる場であり、研究方法論・卒業研究・論文作成は、研究的思考を育む強力な手段となる。

「研究方法論」で研究の基本理念と方法を学び、自由な視点で各自の興味ある研究のテーマを考え模索する。

「卒業研究」では各自、先行研究論文を詳読し、現在の状況・問題点を把握し、研究のテーマを明確化する。

「卒業研究論文」では研究推進に必要な方法・手順の実際を学びつつ、質の高い研究論文の作成に挑戦する。

## 【授業の展開計画】

【授業方法】 原則として個別指導。

## 【日程】

- ・学生と教員の年間スケジュールに合った日程で行う。
- ・研究テーマにより進行は異なるが、10月に一回目の論文提出、11月末には完成させる。

## 【指導内容】

1. 研究テーマ・キーワードを決める。論文【題目】を決める。
2. 年間研究計画を立てる。
3. 文献検索を行い、参考になる先行研究論文を集め、読む。
3. Microsoft Word を使い【緒言】と【文献】を書く。
4. 研究方法を選択し、研究手順を作成する。【方法】を書く。
5. 研究手順を基に、データを収集する。
6. Microsoft Excel を用い、表計算とグラフの作成を行う。
7. 統計処理の方法を選択し実践する。
8. 【結果】を書く。
9. 【考察】を書く。
10. 【緒言】等を見直し、推敲を重ねる。
11. 【要旨】を書き【卒業研究論文】を完成させる。

## 【指導範囲】

医療系一般： 研究の進め方は、看護を含めどの分野も同じと考えてよい。  
身体的・精神的・心理的ストレス時の生体反応（血圧・自律神経系活性・脳波・血糖値などとその変動）を無侵襲的に記録し、睡眠の質や看護介入の効果などを検証する。

## 【教員の研究分野】

- 1) 加齢・病態・外部環境（音、光、香など）による自律神経機能の変動と睡眠の質について
- 2) 若年者における耐糖能の低下と運動による改善について
- 3) 月経前症候群における自律神経機能の変動と睡眠の質について
- 4) 生活習慣病（糖尿病、虚血性心疾患、心不全、高血圧など）の病理・薬理

## 【履修上の注意事項】

- 1) チリも積もれば山となる。地道な努力の積み重ねが、大きな飛躍を生む。

## 【評価方法】

- 1) 思考力
- 2) 研究の進め方
- 3) 卒業研究論文の作成過程

## 【テキスト】

文献、専門書

## 【参考文献】

学術雑誌、看護関連学会雑誌、本学既発行の卒業研究論文集など

## 卒業研究論文

担当教員 緒方 妙子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

### 【授業のねらい】

自己の研究課題を設定し、研究計画書に基づき、データ収集・分析、考察を行い、論文の執筆を行うことができる。

### 【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 看護的視点を踏まえ、自己の興味・関心のあるテーマ、あるいは疑問点から出発し、研究疑問を明らかにする。
3. 自己の研究疑問の文献検索を行い、集めた文献をクリティークし、卒論の研究テーマを導く。
4. 自己の研究テーマに即して、研究方法を追求し、研究計画書を作成する。
5. 研究計画書に基づき、データ収集、分析、考察を行い、論文を作成する。  
研究方法の討論、データ収集や処理が的確かの討論、データの整理、分析、解釈の討論、結論までの道筋が論理的かの討論などを行う。

### 【履修上の注意事項】

テーマに関連する文献を精読して、仮説を立てて、授業に臨んで下さい。  
1週間単位で、途中経過を報告してください。

### 【評価方法】

取り組みの姿勢が主体的であるか10%、文献検索を含む学習量20%、卒業論文（全体の論理性、データの分析・表示を含めた表現力、文章力）70%の割合で、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の都度紹介する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 開田 ひとみ

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

既習の諸学や実習等において得た知識や思考を活用し、研究テーマのリサーチから研究計画書の作成、論文作成、研究成果の発表までの一連の過程を学ぶことができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究テーマのリサーチとディスカッション	16	データ処理
2	研究テーマのリサーチとディスカッション	17	調査結果発表
3	研究テーマのリサーチとディスカッション	18	調査結果発表
4	文献研究	19	論文方向性検討・GW
5	文献研究	20	論文の方向性検討・GW
6	文献研究	21	論文の方向性検討・GW
7	研究計画書作成	22	論文作成
8	研究計画書作成	23	論文作成
9	諸言作成	24	論文作成
10	調査研究	25	論文作成
11	調査研究	26	論文作成
12	調査研究	27	論文作成
13	データ処理	28	論文作成
14	データ処理	29	論文作成
15	データ処理	30	論文発表

## 【履修上の注意事項】

自主自律的な姿勢と態度で論文作成に取り組むこと。後半は、面接やメールでの個人指導を行います。研究を行うにあって、研究の背景や問題の明確化等、自己の課題や疑問点を解決しながら進めていくこと。関連のある文献研究、研究論文の書き方等についての予習復習を行うこと。

## 【評価方法】

論文60点、論文作成に取り組む態度40点評価する。

## 【テキスト】

関係法規等 特別なテキストは使用しない

## 【参考文献】

適宜紹介します。

## 卒業研究論文

担当教員 福本 久美子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

- ・創造的な看護実践の追求を系統的に学習する者の大学4年間の学習の集大成の位置づけ、看護師としての生涯学習の出発点となるよう研究の一連の過程を経験する。
- ・卒業研究論文を作成することで、看護師としての研究的な視点を養うことができる。

## 【授業の展開計画】

- (1) 研究課題(キーワード)
  - ①健康的なライフスタイル②健康な地域づくり③高齢者の健康的な生活(QOL)④労働者の健康とライフスタイル⑤公衆衛生看護⑥地域看護
- (2) 授業の展開
  - 1 : オリエンテーション
  - 2～5 : 文献検索
  - 6～7 : 研究方法の学習
  - 8～11 : 研究テーマの決定、研究計画書の作成
  - 11～14 : 研究計画の修正
  - 15～17 : 調査などの実施
  - 18～21 : 結果の整理、分析
  - 22～27 : 論文作成
  - 28～29 : 報告会及びまとめ
  - 30 : 調査協力者への結果報告・まとめ
- (3) 指導方法
  - ①個別指導とグループ指導を組み合わせる指導
  - ②全体の進行管理のため、合宿などを取り入れ集中的な指導を実施
  - ③文献検索、データ処理方法等について、グループ指導

## 【履修上の注意事項】

- 1) 卒業研究で作成した研究計画に基づき、主体的に卒業研究論文を作成する。
- 2) これまで学んだ知識を統合し、分析的な思考で論文を作成すること。
- 3) 研究論文指導にあたっては、事前事後の予習復習を行い、学びを確かなものとする。

## 【評価方法】

卒業研究論文60%、受講態度40%の割合で総合的に評価する。なお、評価を行なう際は、学生自身による自己評価と教員との面接により評価する。

## 【テキスト】

指定図書なし。必要時資料配布。

## 【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック（メディカ出版）。必要時適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 山本 恵子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

研究テーマに沿った文献検討を行い、研究目的に合った方法で研究を行い論文としてまとめることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは:研究の進め方	16	研究進行状況報告:中間報告会からの変更
2	研究テーマの検討	17	結果のまとめ方:データの見方
3	研究計画書作成に向けて	18	結果のまとめ方:注意点とポイント
4	文献検討の方法	19	考察について:適切な文献の引用
5	研究計画書作成・検討	20	考察について:研究の活用方法
6	調査依頼と調査実施方法	21	謝辞と報告:調査協力者に対するマナー
7	研究計画書の進行状況報告	22	論文の経過報告
8	研究開始:各自のペースで研究実施	23	論文の経過報告
9	研究進行状況報告	24	ゼミ内での査読
10	研究方法の妥当性を確認	25	研究に対する学生同士での意見交換
11	研究の進行状況報告	26	研究に対する学生同士での意見交換
12	研究の進行状況報告	27	研究限界について
13	プレゼンテーション方法	28	研究と臨床のリンク
14	中間報告に向けた準備	29	研究報告に向けた準備
15	中間報告会:研究経過を発表	30	研究報告会・文集作成

## 【履修上の注意事項】

- ・自主的に研究を進めること。履修の都合上（養護教諭の実習など）、授業の展開計画に添えない場合は、各自計画を立てて持参すること。それをもとに相談・協議の上、研究をすすめる。
- ・事前学習:授業展開を参考に4月中に年間計画を立案し協議する。各単元ごとに自身の研究のプレゼンテーションを行う。
- ・事後学習:意見交換を踏まえ、自身の研究を追加修正する。

## 【評価方法】

研究計画書および研究の実施・研究論文作成までのプロセスで80点（詳細は評価表にて説明する）  
研究態度（研究倫理を含む）で20点（詳細は評価表にて説明する）の合計100点で評価する。

## 【テキスト】

なし。必要資料は適宜紹介する

## 【参考文献】

学生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 川本 起久子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

関心のあるテーマから研究目的を明確にし、研究の過程を実施し、論文を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	テーマの確認	16	調査結果の分析①
2	キーワード分析	17	調査結果の分析②
3	文献検討①	18	論文作成①
4	文献検討②	19	論文作成②
5	文献検討③、研究方法の検討①	20	論文作成③
6	研究計画書の作成	21	論文作成④
7	研究計画書の修正、完成	22	論文作成⑤
8	文献検討④、調査票について	23	論文作成⑥
9	文献検討⑤、研究方法の検討	24	論文作成⑦
10	研究方法の最終確認、調査票の作成	25	論文作成⑧
11	調査票の修正、分析方法検討	26	論文作成⑨
12	調査票の完成、依頼先確認、文献検討⑥	27	論文作成⑩
13	調査等の最終確認	28	論文作成⑪
14	結果・分析・考察について	29	論文作成⑫
15	中間報告会	30	論文の完成、提出

## 【履修上の注意事項】

自主的に取り組むこと。事前学習として、ゼミの課題に取り組み参加する。事後学習として、追加修正する。

## 【評価方法】

卒業研究論文（70%）、研究態度（30%）で評価する。

## 【テキスト】

適宜紹介する

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 卒業研究論文

担当教員 上妻 尚子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

- ① 研究方法論および卒業研究での学びを基に、研究テーマに沿って研究を実施することができる。
- ② 得られた研究結果を分析し、規定に沿って論文を作成することができる。
- ③ 研究を行なうための一連の過程を理解することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究とは何か 研究の進め方	16	研究の実施 データ収集
2	文献検索	17	研究の実施 データ収集と整理
3	研究テーマの検討	18	データ整理と分析
4	研究目的の検討	19	データ分析・結果の明確化
5	文献検索と論文クリティーク	20	考察 先行研究との比較
6	研究テーマ・研究目的の明確化	21	考察 研究の限界・実践への示唆
7	研究方法の検討	22	論文の作成 結果の文章化
8	研究計画書の作成について	23	論文の作成 結果・方法の文章化
9	研究計画の発表・意見交換	24	論文の作成 考察の文章化
10	研究方法の再考	25	論文の作成 考察の見直しと再考
11	研究方法の明確化	26	論文の作成 緒言の見直しと要約の文章化
12	研究の実施 質問紙・プロトコール作成	27	研究発表
13	研究の実施 予備実験の実施	28	研究発表と意見交換
14	研究の実施 質問紙・プロトコールの検討	29	論文の修正
15	研究実施状況の報告・意見交換	30	論文の修正・提出

## 【履修上の注意事項】

学生個々の状況に応じて個別指導を取り入れいく。授業の展開計画は、研究テーマによって一部変更する場合もある。授業前は、各授業内容における自分の論文の進捗状況を確認し、必要に応じて資料等を作成する(事前学習)。授業後は、授業での学びを自分の論文作成に活用する(事後学習)。

## 【評価方法】

卒業研究論文(80%)と研究実施過程での手順および態度(20%)より評価する。

## 【テキスト】

適宜紹介する。

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 卒業研究論文

担当教員 二宮 球美

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

## 【授業のねらい】

卒業研究の科目と連動して行う。主に研究論文作成のための方法及び作成を行い研究論文を完成出来ることを目的とする。

## 【授業の展開計画】

グループおよび個人の展開となるので、それぞれ教員と調整を行うこと

週	授業の内容	週	授業の内容
1	看護研究とは 講義	16	測定とデータ収集③
2	テーマ設定① 講義、演習	17	研究データの分析① 個人
3	テーマ設定② 個人 ブレーンストーミング	18	研究データの分析② 個人
4	テーマ設定③ 個人 グループワーク	19	研究データの分析③ 個人
5	テーマ設定④ グループディスカッション	20	研究データの分析評価 グループ
6	テーマ提出 グループワーク	21	研究データの分析評価 グループ
7	文献の抄読会①	22	論文本論の作成① 個人
8	文献の抄読会②	23	論文本論の作成② 個人
9	文献の抄読会③	24	論文本論の作成③ 個人
10	研究計画書のプレゼンテーション①グループ	25	論文本論の抄読会① グループ
11	研究計画書のプレゼンテーション②グループ	26	論文本論の抄読会② グループ
12	研究計画書のプレゼンテーション③グループ	27	論文本論の抄読会③ グループ 仮提出
13	研究計画書の決定	28	論文の読み合わせ、提出準備 グループ
14	測定とデータ収集①	29	論文の提出、学会へのエントリーなど
15	測定とデータ収集②	30	論文冊子の作成、関係各機関への返礼など

## 【履修上の注意事項】

事前学習として、与えられた課題を行い関連した文献を検索すること。シラバスを参考に自分の計画を修正して積極的に進めること。個人によってサポートは異なりますが、個人指導は個別スケジュールを設定いたします。その都度必要な助言はいたしますが、appointmentをとってください。事後の学習は支持されたものだけでなくその周辺の学びも行い、今後の研究の芽を芽吹く努力をすること

## 【評価方法】

卒業研究論文の内容 80%  
グループワーク 20%

## 【テキスト】

個人の研究に応じて提示いたします。

## 【参考文献】

すぐわかる統計処理・解析・多変量解析、石村貞夫、東京図書株式会社、質的研究への挑戦、舟島なをみ、医学書院、はじめての質的研究法、生涯発達・医療看護・臨床社会編、監修秋田喜代美、能智正博、東京図書

## 卒業研究論文

担当教員 松本 鈴子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 在宅看護学

担当教員 開田 ひとみ、落合 順子、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

在宅看護は、対象となる人々が病気や障がいを持っていても地域の中で自分らしく生き生きと生活できるように、その人々の尊厳を護り自立支援することが目的である。

そこで、本科目では在宅療養とその家族を支援するために必要な生活支援・生活の中における医療の継続・保健／医療／福祉の連携と地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能について理解し、在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を習得できるように教授する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	在宅看護を学ぶための基礎知識（増田）	16	在宅看護介入：精神（落合）
2	在宅看護の対象と看護職の役割（増田）	17	在宅看護介入：認知症（開田）
3	在宅看護を取り巻く社会の動向（開田）	18	在宅看護介入：疼痛・終末期（開田）
4	在宅医療と訪問看護の仕組み（開田）	19	在宅看護共通基本技術：訪問技術等（増田）
5	地域包括ケアシステム（開田）	20	在宅看護共通基本技術：支援技術等（増田）
6	退院支援と退院調整（開田）	21	在宅看護生活支援技術：食事 等（増田）
7	在宅看護過程の特徴（増田）	22	在宅看護医療技術：褥瘡 等（落合）
8	在宅看護に活用できる理論（増田）	23	在宅看護過程：プロセス理解（増田・落合）
9	在宅看護の介入時期別特徴（増田）	24	在宅看護過程：事例の理解（増田・落合）
10	在宅看護における安全性と権利保障（増田）	25	在宅看護過程：情報収集（増田・落合）
11	在宅看護介入：小児期；対象理解（落合）	26	在宅看護過程：アセスメント（増田・落合）
12	在宅看護介入：小児期；介入方法（落合）	27	在宅看護過程：計画（増田・落合）
13	在宅看護介入：慢性呼吸不全（落合）	28	在宅看護過程：実施（増田・落合）
14	在宅看護介入：脳卒中後遺症（落合）	29	在宅看護過程：評価（増田・落合）
15	在宅看護介入：難病（増田）	30	学習のまとめ（増田）

### 【履修上の注意事項】

- ・事前に配布された資料を基に予習を行い、講義内容は毎回各自復習した上で受講すること。
- ・特に、在宅看護過程に関する学習は、学習進度に応じて事前学習課題を提示するので、指定された時期迄に事前学習して受講し、受講後は授業内容を振り返り（復習）事前学習で不足していた内容は再度学習（追学習）して、次の授業に望むこと。

### 【評価方法】

- ・客観テスト : 80%
- ・課題レポート : 20%

### 【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院

### 【参考文献】

- ・適宜提示